



Kyushu FG

会社説明会

2025年12月

株式会社九州フィナンシャルグループ

Kyushu Financial Group, Inc.

東証プライム上場 証券コード: 7180



I 2025年9月期 決算概要

1. 決算概況	P.4
2. 中間純利益の増減要因	P.5
3. 資金利益	P.6
4. 貸出金	P.7
5. 貸出金利構成	P.8
6. 総預金	P.9
7. 有価証券	P.10
8. 円債・外債の状況	P.11
9. 役務取引等利益	P.12
10. 経費	P.13
11. 与信費用と金融再生法開示債権	P.14
12. 自己資本比率	P.15
13. 業績予想	P.16

II 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取り組み

1. 現状分析（当社株価・PBR・ROEの推移）	P.18
2. 当社グループが目指す姿	P.19
3. PBR改善ロジックツリー	P.20
4. ROE向上施策の取り組み状況	P.21

III 第4次グループ中期経営計画「躍進」の進捗状況

1. 2030年に目指す「共創ビジョン」の進捗	P.24
2. 第4次グループ中期経営計画の概要	P.25
3. 【基本戦略1】地域経済の成長に向けたコア事業の強化	P.26
4. 【基本戦略2】未来を創る地域価値提供の取り組み加速	P.29
5. 【基本戦略3】持続的成長に向けた強固な経営基盤の確立	P.30

計数資料



Kyushu FG

2025年9月期 決算概要

株式会社九州フィナンシャルグループ

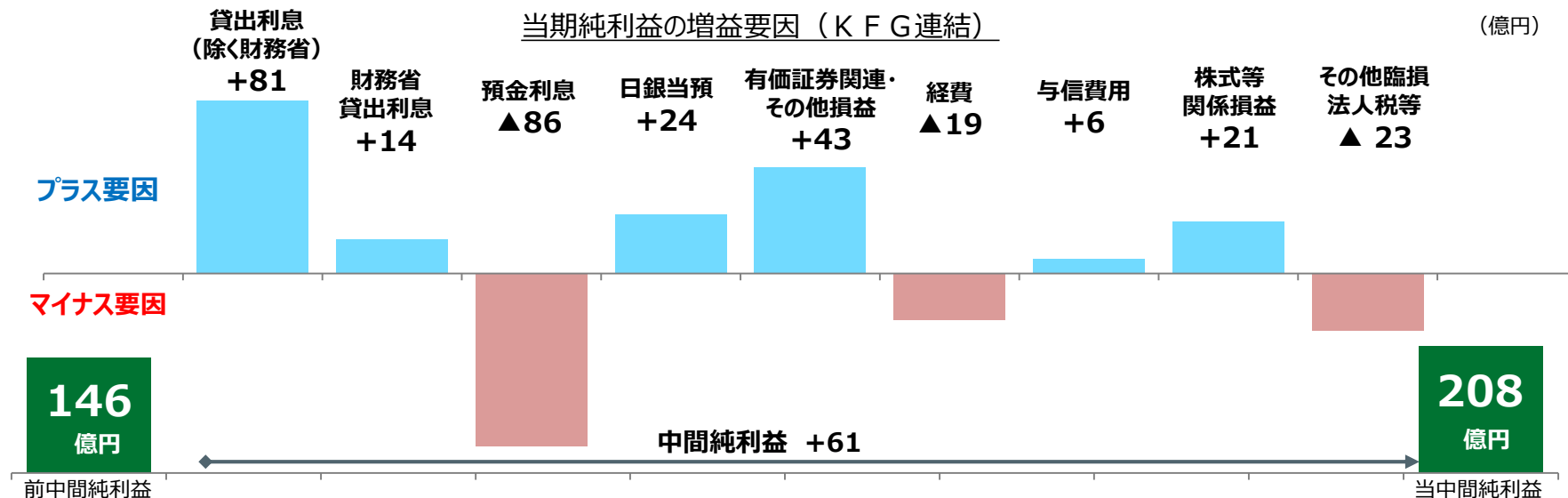
Kyushu Financial Group, Inc.



資金利益や株式等関係損益がけん引し、前年同期比で増収増益・過去最高を更新

損益状況	KFG連結			2行合算			(億円)
	2025/9	前年同期比	2024/9	2025/9	前年同期比	2024/9	
経常収益	1,225	138	1,086	1,011	138	872	
業務粗利益	647	76	570	606	79	526	
資金利益	547	53	493	558	58	499	
役務取引等利益	91	4	87	79	4	74	
その他業務利益	7	18	▲ 11	▲ 31	16	▲ 47	
(うち国債等債権損益)	▲ 4	▲ 5	1	▲ 4	▲ 5	1	
経費 (▲)	419	19	400	381	18	363	
コア業務純益	231	63	168	228	67	161	
一般貸倒引当金繰入額 (▲)	—	—	—	▲ 3	3	▲ 6	
業務純益	227	57	170	227	58	169	
臨時損益	72	30	42	72	36	36	
不良債権処理額 (▲)	2	0	1	10	13	▲ 3	
貸倒引当金戻入益	9	6	2	16	9	7	
株式等関係損益	51	21	30	55	25	30	
経常利益	299	87	212	300	94	205	
特別損益	▲ 0	0	▲ 1	▲ 0	0	▲ 1	
中間純利益	208	61	146	211	67	143	
(与信費用)	▲ 7	▲ 6	▲ 1	▲ 9	▲ 7	▲ 2	

利回り改善による貸出利息や株式等関係損益の増加により、前年同期比で増益



<主なプラス要因>

- 貸出利息、財務省貸出利息 +95億円
貸出金利回り +0.19%
- 有価証券関連・その他 +43億円
利息等+16、外貨費用他(▲)▲27 他
- 株式等関係損益 +21億円
旧政策株の売却 +21億円 他

<主なマイナス要因>

- 預金利息 (▲) 86億円
預金等利回り +0.16%
- 経費 (▲) 19億円
人件費 +12(ベア等)
物件費 + 6(システム保守費+2、事務委託費+2、広告宣伝費+1 他)

3. 資金利益

資金利益は、貸出金利息・有価証券利息の増加が寄与し前年同期比で増加

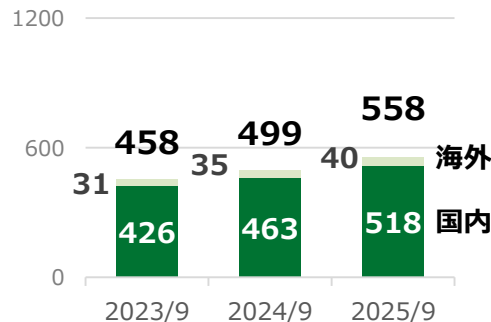
資金利益の状況（2行合算）

（億円）

	2023/9	2024/9	2025/9	前年同期比
資金利益	458	499	558	58
国内部門	426	463	518	54
うち貸出金利息	362	386	494	108
うち有価証券利息	75	82	86	4
うち資金調達コスト(▲)	12	25	112	86
国際部門	31	35	40	4
うち貸出金利息	29	26	15	▲ 11
うち有価証券利息	71	80	95	15
うち資金調達コスト等(▲)	70	71	71	▲ 0

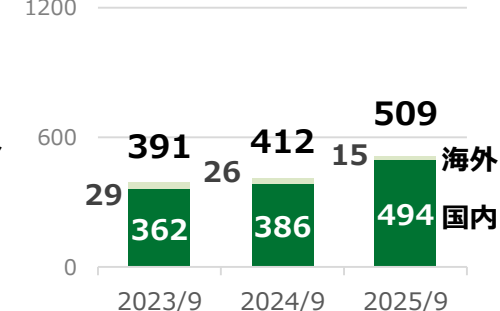
資金利益推移（2行合算）

（億円）



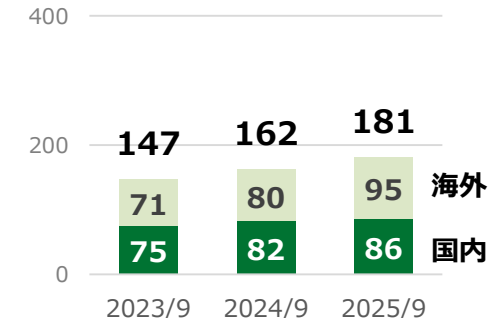
①貸出金利息推移（2行合算）

（億円）



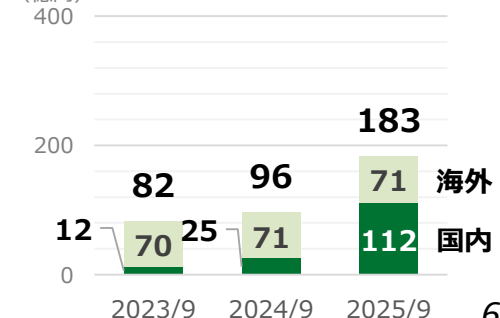
②有価証券利息推移（2行合算）

（億円）



③資金調達コスト（2行合算）

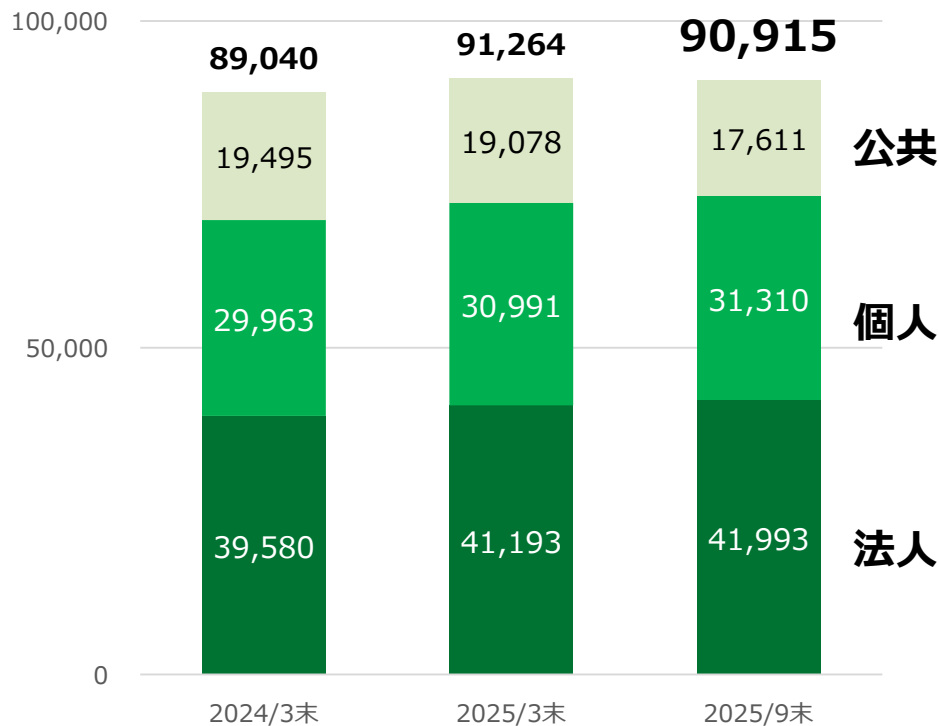
（億円）



公共向け貸出の減少により貸出残高は減少するも、法人・個人向け貸出は増加

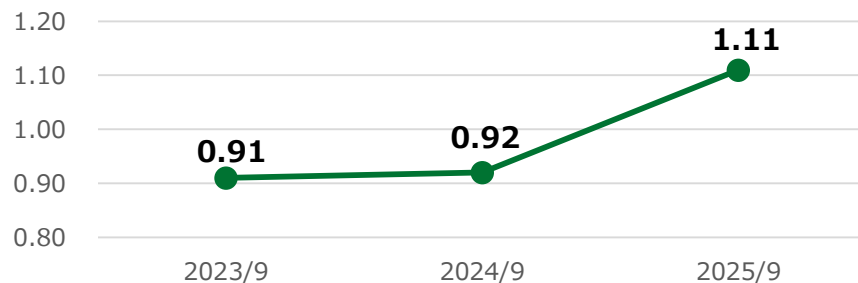
(億円)

貸出金残高の推移 (2行合算 残高)



(%)

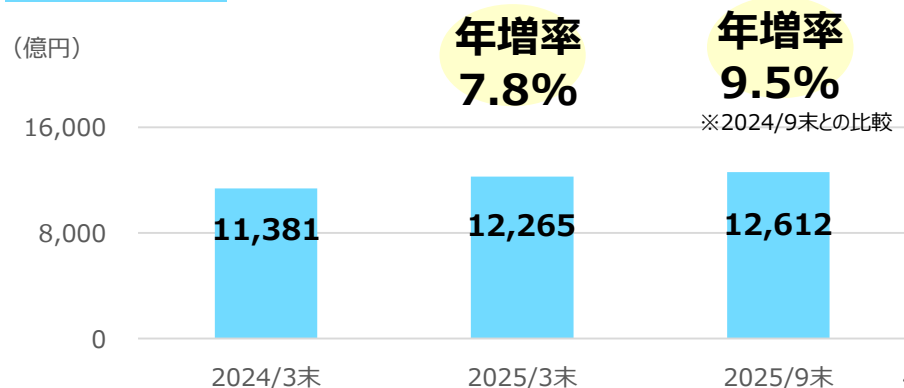
貸出金利回りの推移 (2行合算)



肥後銀行

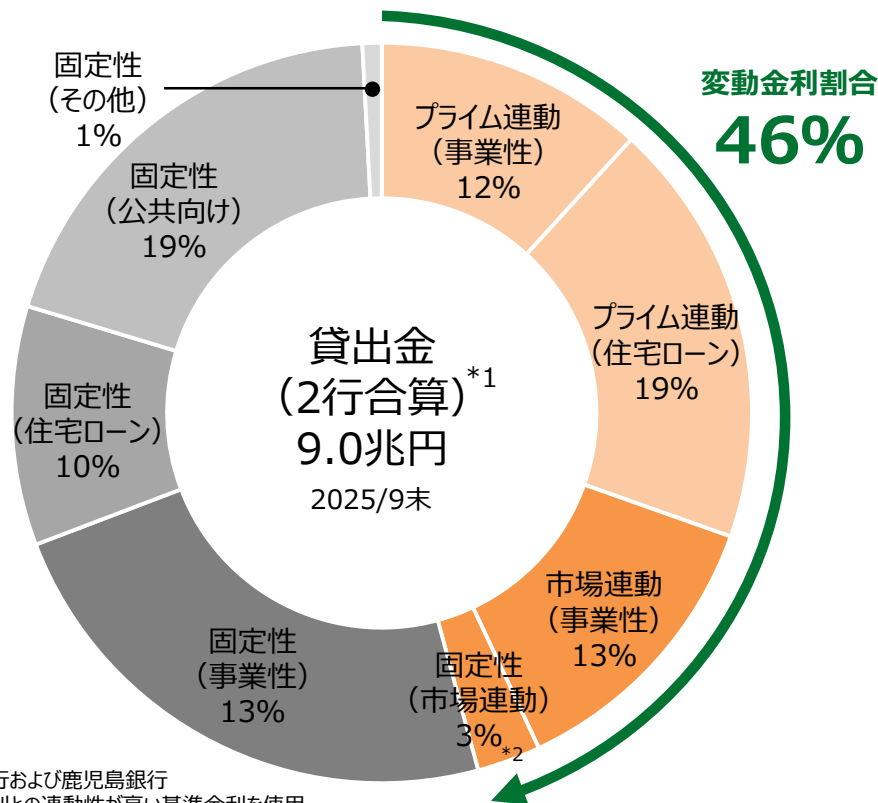
熊本県内法人向け貸出金残高の推移 (残高)

(億円)

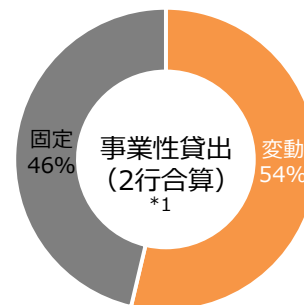


変動金利は4割、政策金利の利上げにより着実に収益に貢献

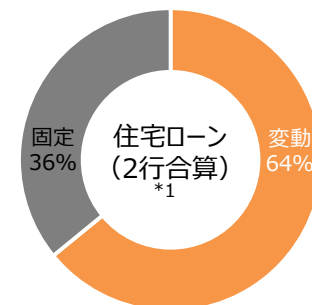
当社の貸出金利構成（2025/9末）



事業性貸出



住宅ローン



政策金利の利上げによる影響試算

政策金利が0.25%上昇した場合の、
①貸出金利息、②日銀預け金利息、③預金利息による影響

金利引上げから1年間の影響

(業務粗利益)

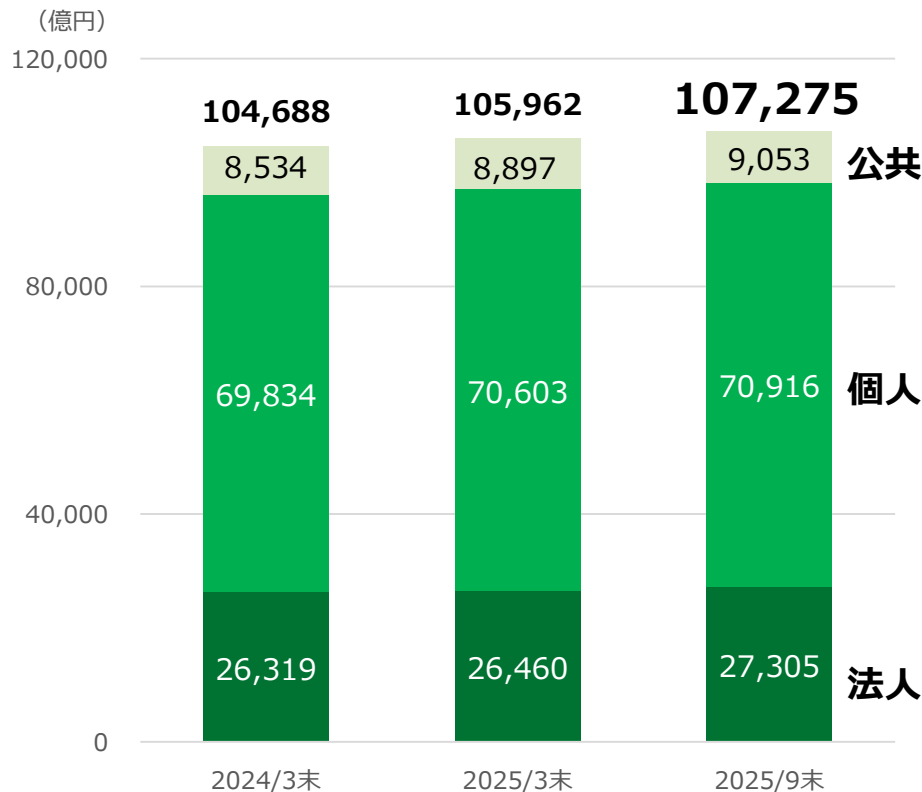
+ 約40億円

- 2025/9 末残高（2行合算）をもとに金利上昇をフルスライド
- 預金金利は市場金利の引き上げに伴って上昇すると想定
- その他条件は、政策金利が維持された場合と同条件

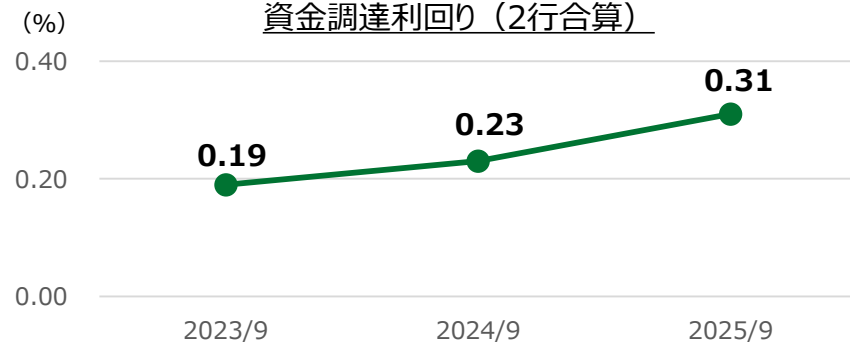
*1 肥後銀行および鹿児島銀行
*2 市場金利との連動性が高い基準金利を使用

総預金残高は堅調に増加、粘着性のある地元預金が着実に増加

総預金残高の推移（2行合算 含むNCD）

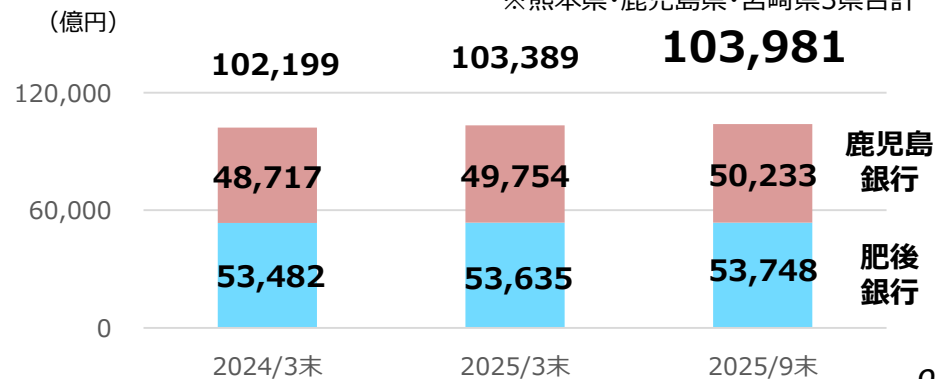


資金調達利回り（2行合算）



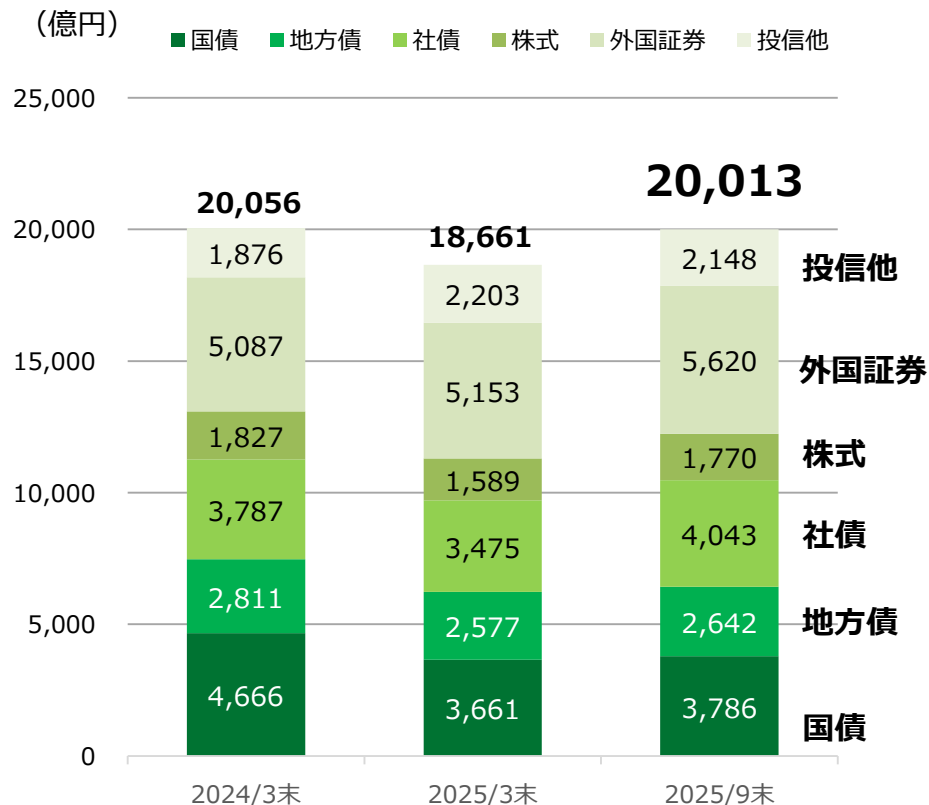
域内※総預金残高（銀行別 残高 含むNCD）

※熊本県・鹿児島県・宮崎県3県合計

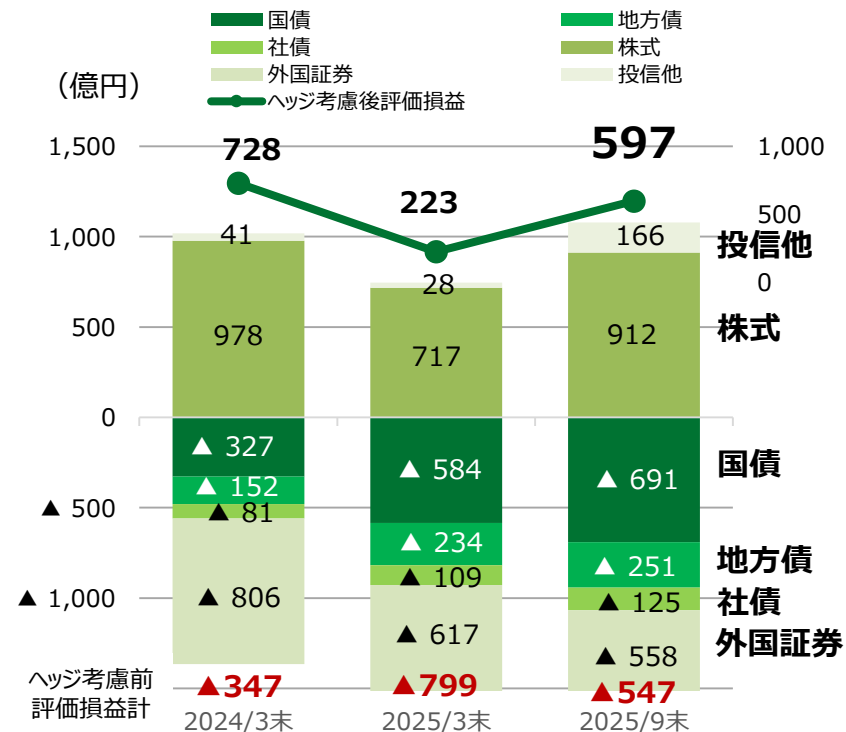


金利上昇局面でターミナルが不透明な状況下のため、抑制的に運用

有価証券残高の推移（2行合算）

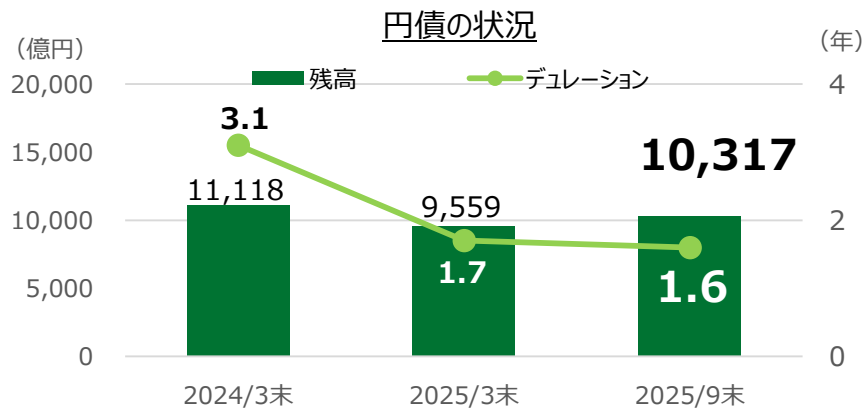


有価証券評価損益の推移（2行合算）



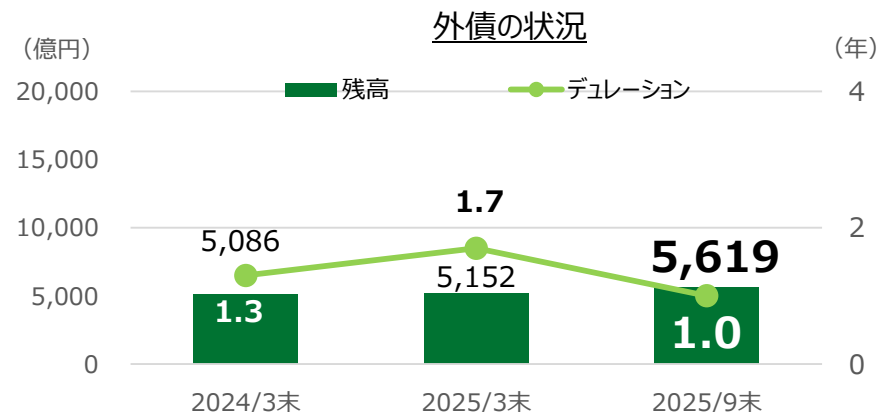
8. 円債・外債の状況

円債・外債ともに入れ替えを進め、デュレーション・金利リスクをコントロール



評価損益 ▲327億円 ▲527億円 ▲561億円

※ 売買目的有価証券及び満期保有目的債券を除く



評価損益 24億円 6億円 81億円

※ 外国籍投信、ユーロ円債、サムライ債を含む

金利上昇時の影響（有価証券評価損益への影響額）

パラレルに
10bps上昇
した場合の
試算値

円債	▲14億円
外債	▲5億円

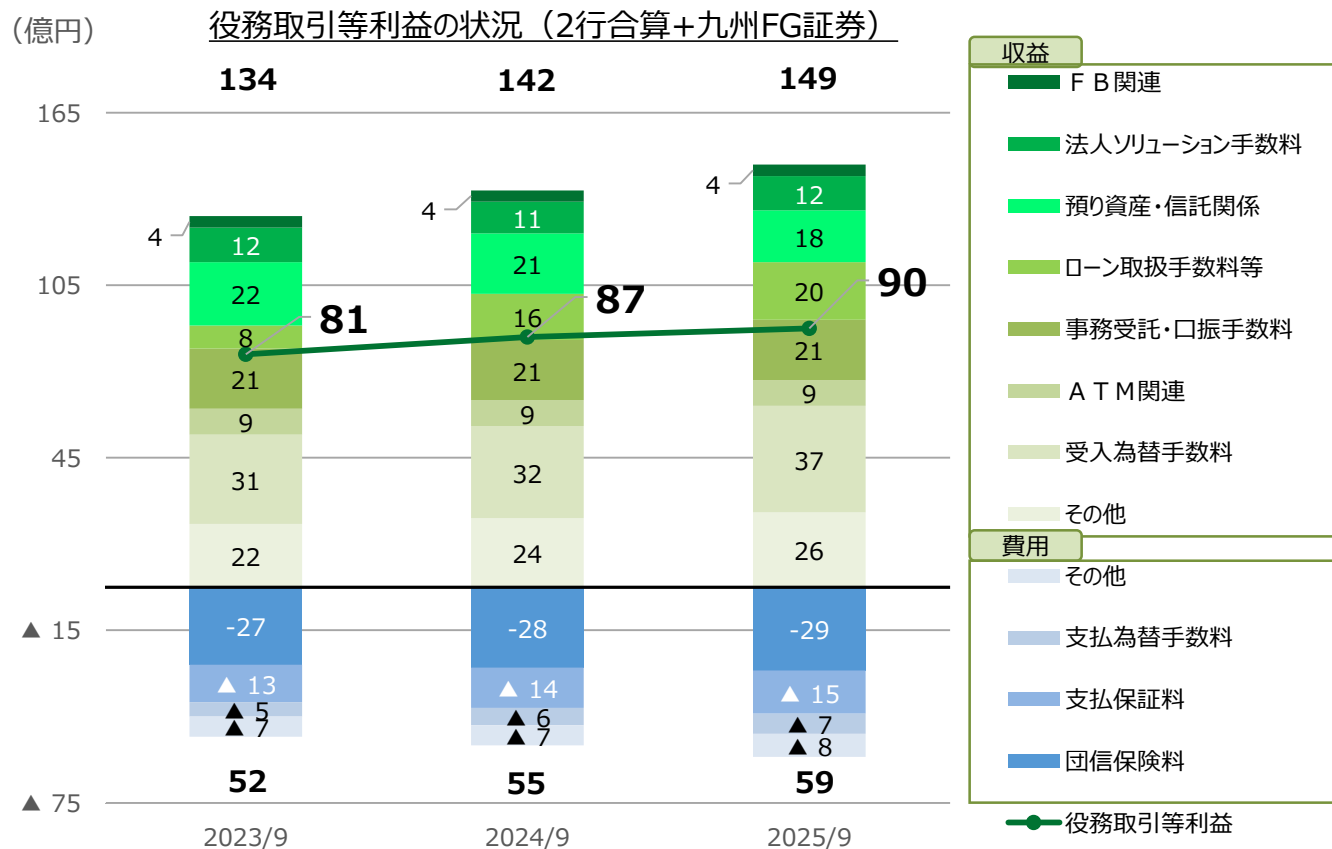
※ 1 売買目的有価証券及び満期保有目的債券を除く
※ 2 金利スワップ・債券ベア型ファンドを含む

金利期間別影響額

	1年未満	1～3年	3～5年	5～7年	7～10年	10年超
円債	▲0.9	▲4.0	3.7	▲1.8	1.4	▲11.8
外債	▲0.4	▲1.4	▲0.6	▲1.1	▲0.6	▲0.4

(億円)

役務取引等利益は、ローン取扱手数料の増加等がけん引し前年同期比で増加



収益の主な増加要因

○ 役務取引等収益

- ・ローン取扱手数料等 +3億円
- ・受入為替手数料 +5億円

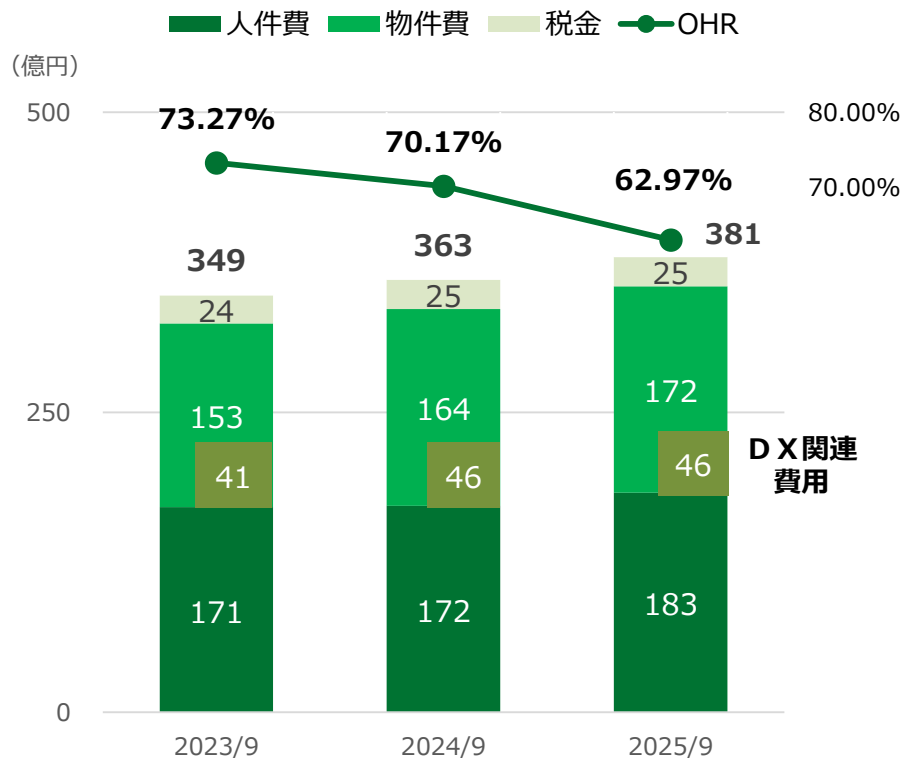
費用の主な増加要因

○ 役務取引等費用

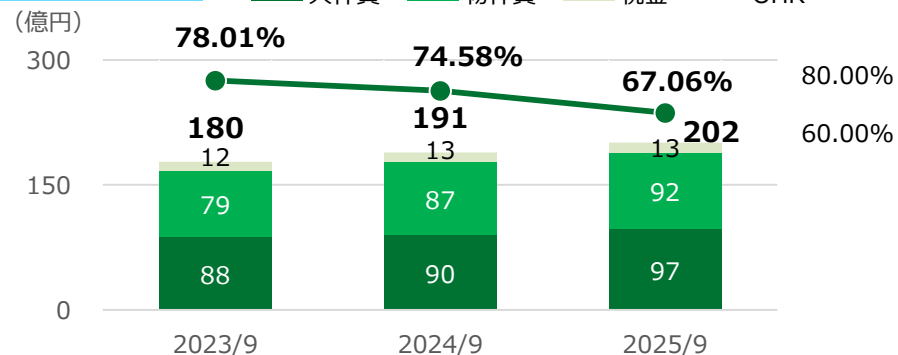
- ・団信保険料（▲） +1億円
- ・支払為替手数料（▲） +1億円

経費は前年同期比で上昇するも、業務粗利益の増加によりOHRは改善傾向

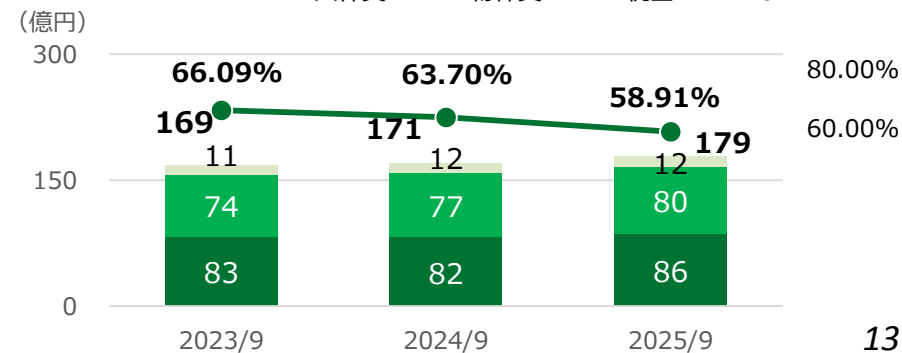
経費の推移（2行合算）



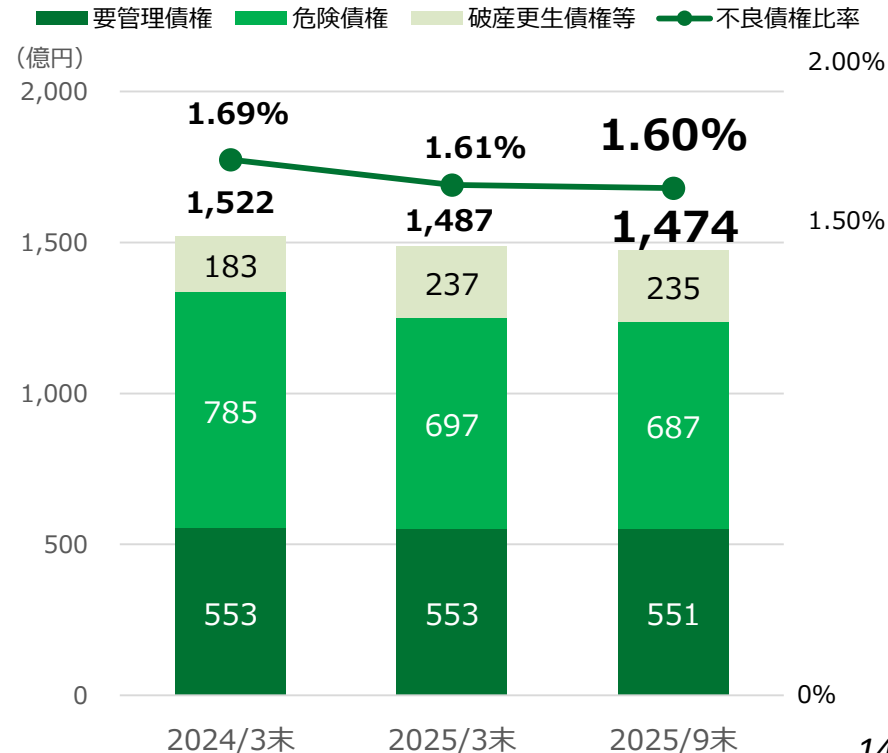
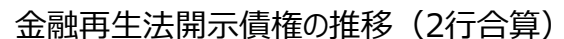
肥後銀行



鹿児島銀行



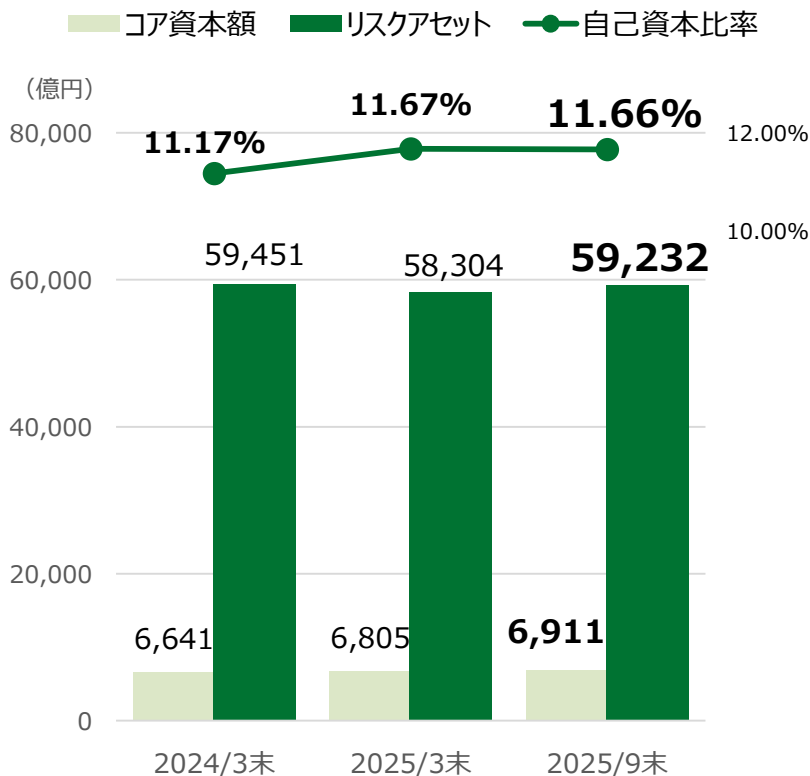
与信費用の推移（2行合算）



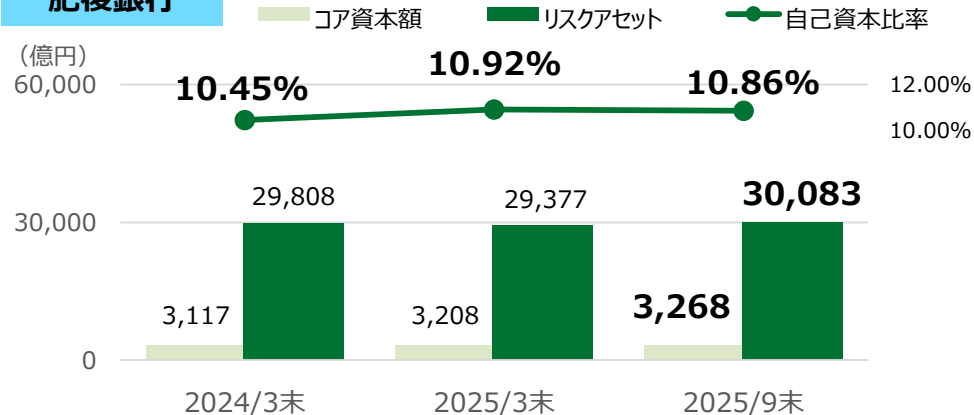
12. 自己資本比率

自己資本比率は、リスクアセット増加により年度末比0.01%低下

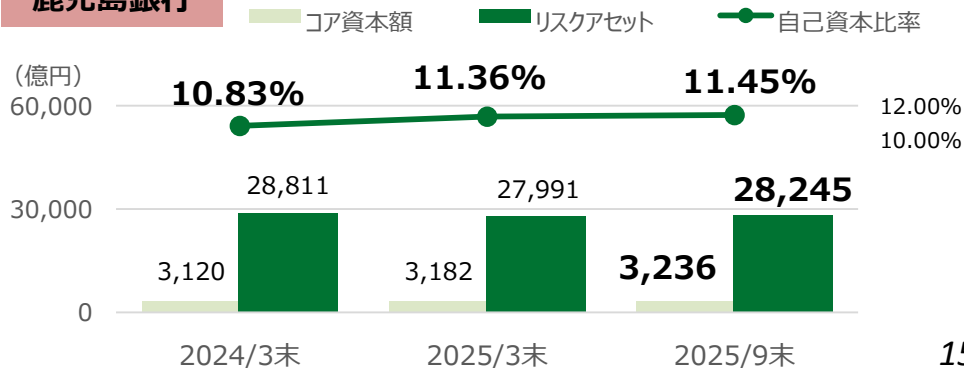
自己資本比率の推移（KFG連結）



肥後銀行



鹿児島銀行



2026年3月期の連結当期純利益は、350億円と実質過去最高益を見込む

2026年3月期業績予想（K F G連結）(億円)

K F G連結	2025/3 (実績)	2026/3 (業績予想) ※	増減
経常利益	429	505	+ 76
当期純利益	303	350	+ 47

2026年3月期業績予想（2行合算）(億円)

2行合算	2025/3 (実績)	2026/3（業績予想）※			増減
		2行合算	肥後	鹿児島	
経常利益	416	500	250	250	+ 84
当期純利益	298	350	175	175	+ 52
与信費用	21	35	15	20	+ 14

※2024年11月5日、業績予想上方修正後の計数



Kyushu FG

資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた取り組み

株式会社 九州フィナンシャルグループ

Kyushu Financial Group, Inc.

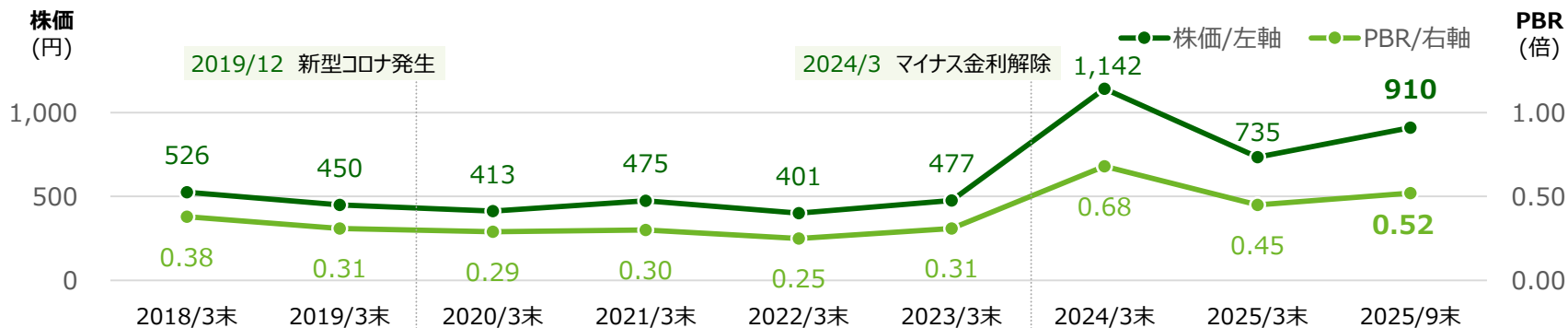


1. 現状分析（当社株価・PBR・ROEの推移）

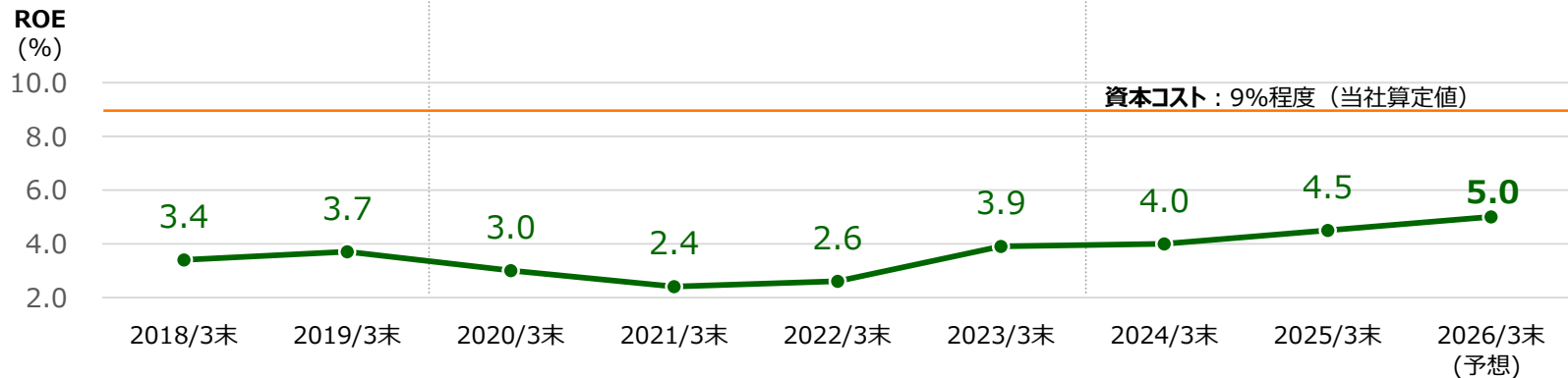
九州フィナンシャルグループ

PBR・ROE共に上昇傾向、資本コストや株価を意識した経営に引き続き注力

株価とPBRの推移



ROEの推移

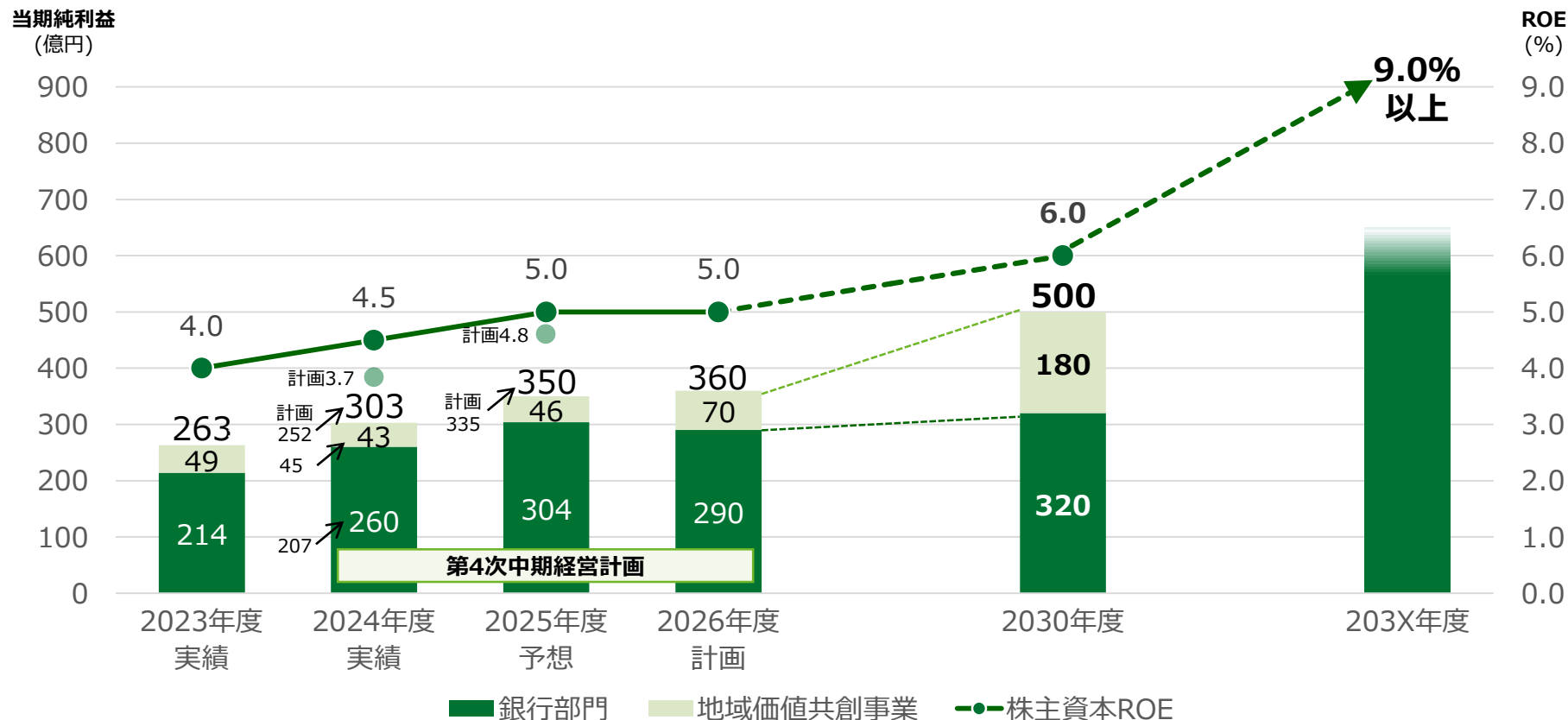


当期純利益 (億円) 193 222 182 150 166 246 263 303 350

2. 当社グループが目指す姿（利益・ROE向上）

九州フィナンシャルグループ

収益力の強化により、資本コストに見合うROE9%以上の早期実現を目指す



※銀行の預り・法人ソリューション役務を、地域価値共創事業に算入

2025年度計画に対する進捗は概ね良好に推移

				主要KPI	24年度実績	25年度計画	25年度見込	評価
ROE 向上 25年度計画 4.5% [25年度見込] 5.0%	RORA改善	収益力強化	コア事業である法人貸出 および個人ローンの増強	事業性貸出平残	40,019億円	41,700億円	41,900億円	😊
			役員取引の強化	住宅ローン平残	26,558億円	27,400億円	27,300億円	😬
				法人ソリューション等手数料	29億円	33億円	35億円	😊
				預り資産関連手数料	43億円	43億円	44億円	😊
			コスト コントロール	経費コントロール	OHR	74.9%	66.2%	65.6%
	与信費用コントロール	与信費用比率		0.02%	0.04%程度	0.03%	😊	
	リスクアセット コントロール	自己資本比率 目標レンジ内コントロール	自己資本比率	11.6%	10～11%	11%台後半	😬	
		資本の有効活用	リスクアセットの削減 (政策投資の削減)	政策保有株式（連結純 資産に対する比率）	2.6%	3年で 2%台前半	3年で 2%台前半	😊
	財務レバレッジ コントロール		新規事業投資 (地域価値共創事業)	新規事業投資 (累計額)	—	—	—	—
		株主還元の 充実	業績連動型の配当	配当性向	29.9%	30%程度	30.7%	😊
	適時適切な自己株式取得		自己株式取得 総還元性向	—	適時適切な 取得	100億円 61.7%	😊	
PER 向上	資本コスト 抑制	事業リスク 低減	業績ボラティリティの改善	業績予想と純利益の乖離	+6.5%	±30%以内	中間+9.4%	😊
			ESG評価の向上 サステナビリティ経営の実践	FTSE ESGスコア (ガバナンス)	世界平均比 ▲0.3P	銀行セクター 世界平均以上	世界平均比 ▲0.3P	😬
	期待成長率 向上	地域経済の 活性化	地域価値共創事業の強化	地域価値共創事業収益	43億円	45億円	46億円	😊

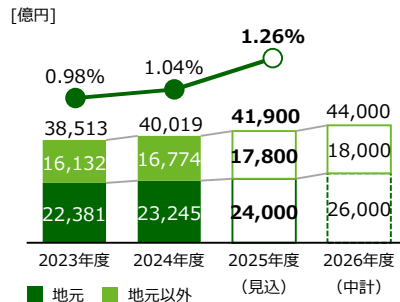
4. ROEおよびPER向上施策の取り組み状況①

九州フィナンシャルグループ

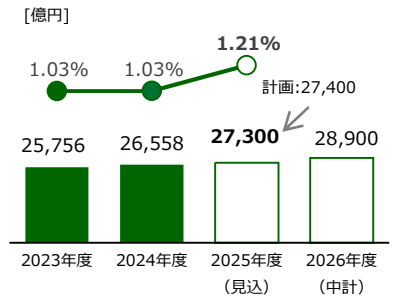
貸出・役務共に概ね順調に推移。自己資本比率は最終年度レンジ内着地を目指す

コア事業の強化

法人貸出（事業性貸出）平残・利回り

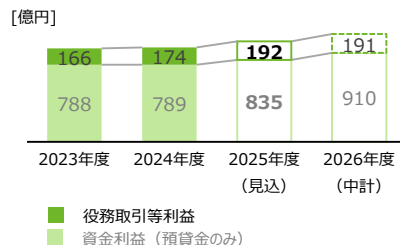


個人ローン（住宅ローン）平残・利回り

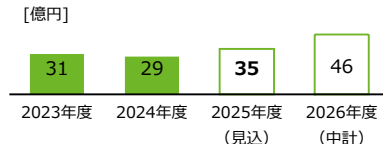


役務取引の強化

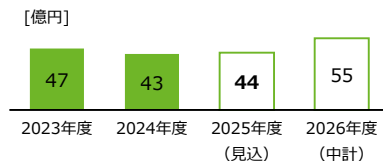
役務取引等利益・資金利益（連結ベース）



法人ソリューション等手数料（2行合算）

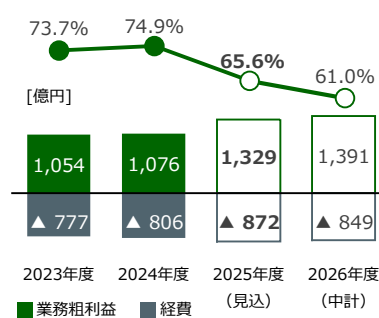


預り資産関連手数料（2行合算+証券）

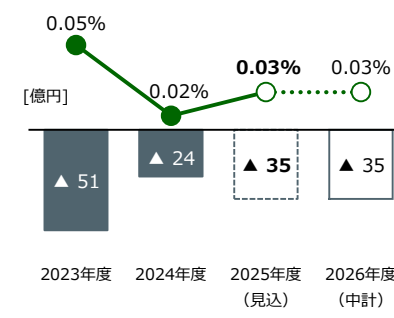


経費コントロール・与信費用コントロール

OHR（連結ベース）

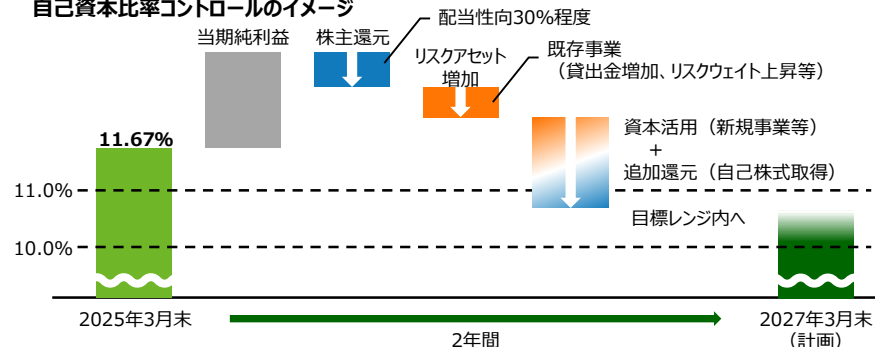


与信費用（2行合算）・与信費用比率



リスクアセットコントロール

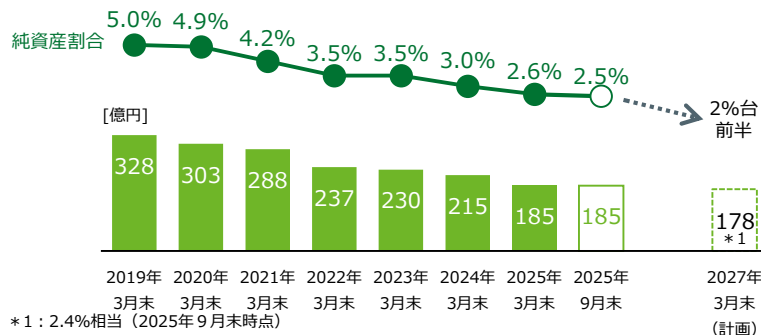
自己資本比率コントロールのイメージ



政策株の縮減は着実に進捗。増益による増配、自己株式取得により株主還元を充実

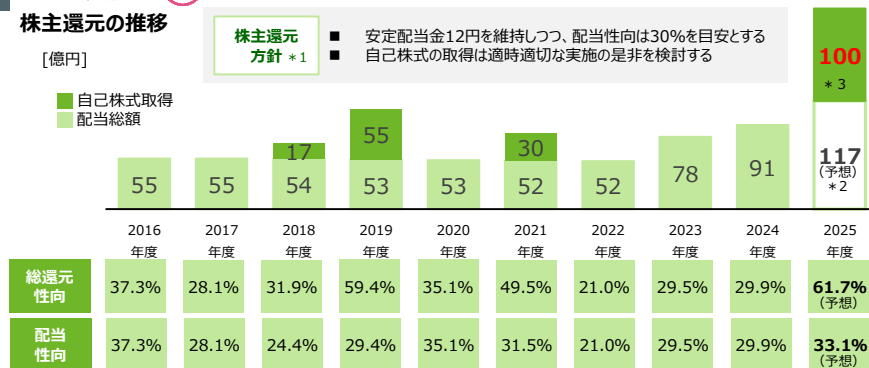
政策投資株式の縮減

政策投資株式（2行合算・取得簿価ベース）の推移



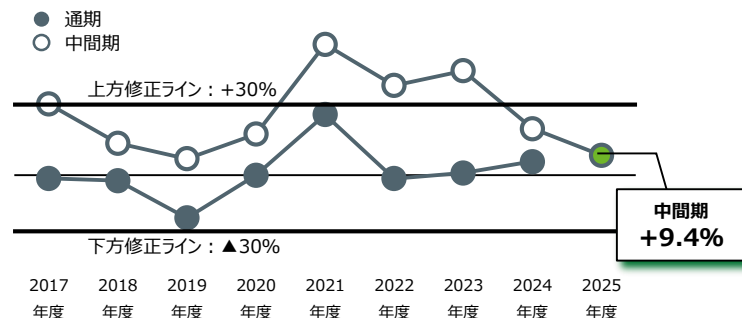
株主還元

株主還元の推移



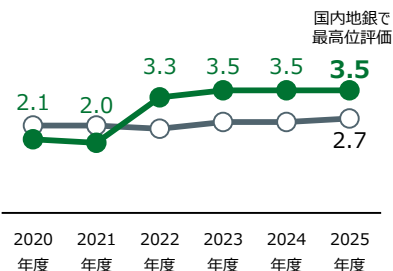
業績ボラティリティの改善

業績予想に対する純利益の乖離率

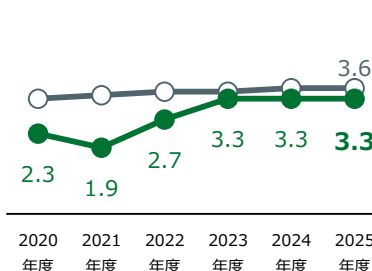


ESG評価の向上

【参考】FTSE ESGスコア (総合)



FTSE ESGスコア (ガバナンス)





Kyushu FG

第4次グループ中期経営計画「躍進」 の進捗状況

株式会社九州フィナンシャルグループ

Kyushu Financial Group, Inc.



5. 2030年に目指す「共創ビジョン」

九州フィナンシャルグループ

グループ会社等

銀行

2024年度 (実績)

14%
43億円

地域価値共創事業	事業開発部門	九州デジタルソリューションズ	▲0億円
		九州みらいCreation	▲1億円
	金融部門	グループ会社 (リース・カード他)	20億円
	銀行以外の	九州FG証券	2億円
銀行部門 (預り・ソリューション)			23億円

86%
260億円

預り、法人ソリューションを除く

連結当期純利益 303億円

2025年度 (予想)

13%
46億円

地域価値共創事業	事業開発部門	人材(紹介・派遣・教育) リサーチ&コンサル	
		九州デジタルソリューションズ	+0億円
		九州みらいCreation	▲0億円
	銀行以外の金融部門	グループ会社 (リース・カード他)	
		19億円	
		九州FG証券	
	1億円		
銀行部門	(預り・ソリューション)		
26億円			

87%
304億円

預り、法人ソリューションを除く

350億円

2026年度 (計画)

19%
70億円

地域価値共創事業	事業開発部門	人材(紹介・派遣・教育) リサーチ&コンサル	6億円
		九州デジタルソリューションズ	2億円
		九州みらいCreation	
		新規事業	
銀行以外の	金融部門	グループ会社 (リース・カード他)	21億円
		九州FG証券	6億円
銀行部門 (預り・ソリューション)			34億円

81%
290億円

預り、法人ソリューションを除く

360億円

2030年度 (共創ビジョン)

36%
180億円

地域価値共創事業	事業開発部門	人材(紹介・派遣・教育) リサーチ&コンサル	10億円
		九州みらい Creation	3億円
		九州デジタル ソリューションズ	10億円
		九州会計サービス	0.2億円
	銀行以外の 金融部門	新規事業	36億円
		新規事業	
		グループ会社 (リース・カード他)	21億円
		九州FG証券	50億円
		銀行部門 (ソリューション)	

64%
320億円

預り、法人ソリューションを除く

500億円

第4次グループ中期経営計画『躍進』

第4次グループ中期経営計画「躍進」(2024年4月～2027年3月)

基本方針

地域価値共創グループ実現へ向けての躍進

基本戦略

1. 未来を創る地域価値提供の取り組み加速

戦略の柱

- ① 新たな事業への挑戦・事業領域の拡充
- ② 地域・お客さま起点のソリューション提供

2. 地域経済の成長に向けたコア事業の強化

戦略の柱

- ① 地域産業の成長支援強化
- ② ライフプランコンサルティングの深化

3. 持続的成長に向けた強固な経営基盤の確立

戦略の柱

- ① 人的資本経営の実践による社員価値向上
- ② GX・DXにかかる先進的な取り組み
- ③ KFGビジネスモデルの変革

3. 【基本戦略1】地域経済の成長に向けたコア事業の強化

九州フィナンシャルグループ

戦略の柱①

地域産業の成長支援強化

半導体産業への取り組み

電子デバイス関連産業向け貸出金

貸出金推移（2025.9末時点）

累計実績（※） 3,078億円

（※）2022/4より

1,003

1,179

1,635

2,242（億円）

869

469

見込

実績

実績

実績

計画

計画

2023年度

2024年度

2025年度

2026年度

TSMCサプライチェーン参入支援件数

支援実績（2025.9末時点）

累計実績 19件

11

15

25

（件）

実績

8

実績

計画

計画

2024年度

2025年度

2026年度

海外からの進出企業の状況

進出企業数および肥後銀行の口座開設数（2025.9時点）

熊本への進出企業

104社（※）

（※）肥後銀行調べ

口座開設数

61社

電子デバイス関連産業支援に向けた連携状況

● 北洋銀行との連携・協力 2025.9発表

北洋銀行（本店：北海道札幌市）と半導体サプライチェーン構築に係る連携・協力に関する覚書を締結



● Q-BASS（九州・沖縄地銀連携協定）の取り組み

経済産業省の「令和7年度中小企業に対する支援機関等のGX支援体制強化事業」に採択

2025.9発表



3. 【基本戦略1】地域経済の成長に向けたコア事業の強化

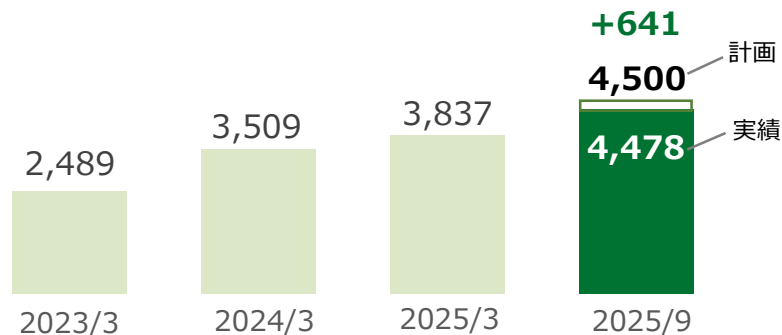
九州フィナンシャルグループ

戦略の柱②

ライフプランコンサルティングの深化

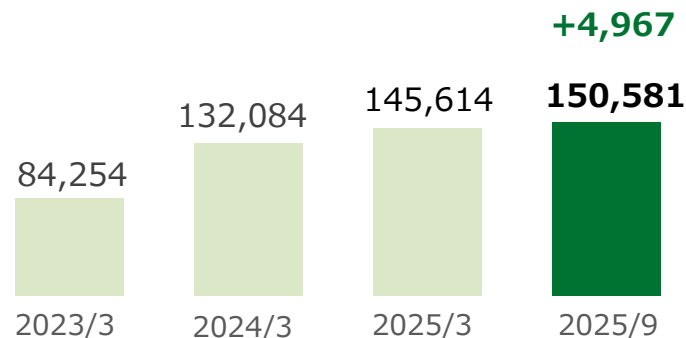
預り資産残高推移（九州FG証券）

（億円）



NISA口座数推移

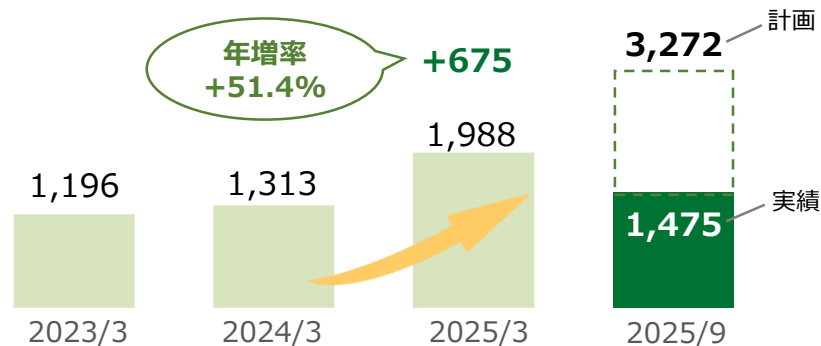
（口座）



信託業務契約推移

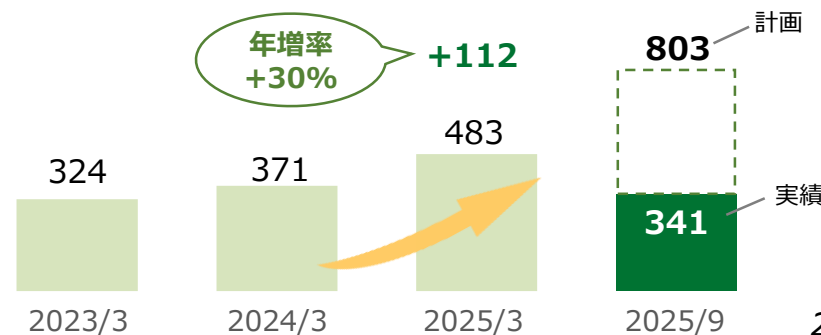
九州地銀初 信託業務開始

（件）



信託役務収益推移

（百万円）



3. 【基本戦略1】地域経済の成長に向けたコア事業の強化

九州フィナンシャルグループ

個人・法人ともに預金口座のメイン化を推進し、粘着性預金の獲得・増強を図る

ターゲット・戦略

施策・キャンペーン

非対面サービス

個人

若年層、子育て・共働き世代

- 若年層の取引裾野拡大
- 口座メイン化による粘着性預金の取り込み
- 利便性の向上・世帯取引囲込み

高齢シニア層、富裕層

- 他行シフト防止・ボリューム増強
- 円滑な資産承継支援
- 相続預金流出対策

法人

- 事業決済口座のメイン化
- 預金商品ラインナップの拡充

肥後銀行

- ATM手数料無料化
- 給振増強
- 新ポイントサービス導入
- ひごっこ口座

- 阿蘇グリーン定期預金
- 退職者向け定期預金プラン、資産づくりプラン改定
- 信託取組み強化、相続人との接点強化

- 「BIB」「でんさい」「法人カード」取組強化
- サステナビリティ定期預金
- ポジティブ・インパクト預金

鹿児島銀行

- 給与振込セット率の向上
- 各種ローン取引推進
- 「はじめてよきん」プロジェクト
- プロスポーツ連携キャンペーン

- 退職者向け定期預金プラン、資産づくりプラン
- 年金定期
- 資産形成、相続・信託ニーズの獲得

- NCDの推進
- 法人IBサービス無料化検討、機能拡充による利便性の向上

バンキングアプリ

肥後銀行アプリ
かぎんアプリ

キャッシュレス決済

くまモン!Pay
Payどん

クレジットカード

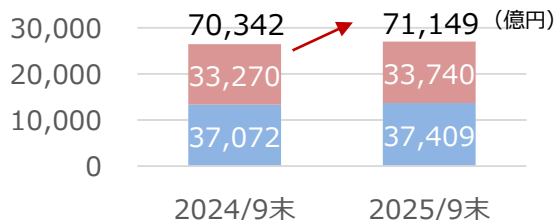
Harmonicaクレジット
カード
パーチェシングカード

ポータルサイト

肥銀ビジネスポータル
かぎんビジネスポータル

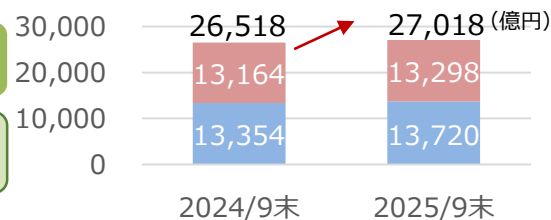
個人預金 (平残)

807億円
増加



法人預金 (平残)

500億円
増加



4. 【基本戦略2】未来を創る地域価値提供の取り組み加速

九州フィナンシャルグループ

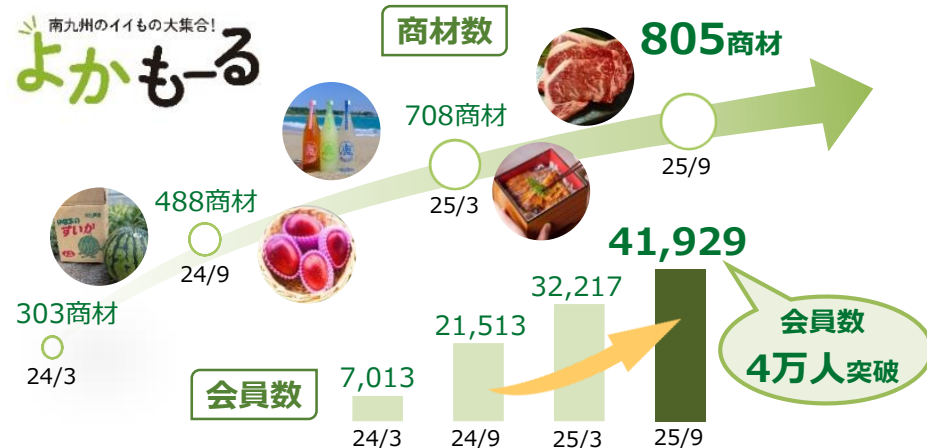
戦略の柱①

新たな事業への挑戦・事業領域の拡充

地域商社「九州みらいCreation」の取り組み

ECモール「よかもーる」

2023.6開始



ふるさと納税サイト「ふるさと一番」

2025.10開始

ふるさと納税ポータルサイト
「ふるさと一番」の運営を開始



戦略の柱②

地域・お客さま起点のソリューション提供

地域のロス解消への取り組み

肥後銀行

2025.2開始

地域のロス解消事業「かせする」

- 地域で発生するフードロス・在庫ロス・設備ロス解消の取り組み

ユーザー登録数

16,014人

店舗加盟数

345店舗

※2025年11月末



地域のロス解消
プラットフォーム
「かせする」

地域デジタル化への取り組み

鹿児島銀行

2025.6発表

デジタル関連事業会社「パステムソリューションズ」の子会社化

- 地域、お客さまに対するデジタル化支援の体制強化の取り組み
- 従来の金融の枠を超えたデジタルソリューション分野の事業拡大を図る

※現在当局審査中

地域価値向上への取り組み

肥後銀行

2025.10設立

健康経営事業子会社「九州健康経営ラボ」の設立

- 健康経営への豊富なノウハウを生かし、地域における健康経営を促進
- 銀行子会社としては全国で初の取り組み

5. 【基本戦略3】持続的成長に向けた強固な経営基盤の確立

九州フィナンシャルグループ

戦略の柱①

人的資本経営の実践による社員価値向上

賃上げ・初任給改定

3年連続で定期昇給およびベースアップによる5%以上の賃上げ方針（2025年度）を決定、2026年4月も初任給を引上げ予定

（単位：円）

	2025年度 賃上げ率	2022年 4月	2023年 4月	2024年 4月	2025年 4月	2026年 4月
K F G	約5.1%	250,500	270,000	280,000	300,000	310,000
肥後銀行	約5.7%	205,000	220,000	240,000	260,000	270,000
鹿児島銀行	約5.5%	205,000	220,000	240,000	260,000	270,000

※初任給：大卒・エリアフリーの場合

多様性の尊重

女性管理職比率

15.0% ※2025年3月末

正規雇用男女間賃金差異

※正規雇用男性従業員の平均賃金に対する
正規雇用女性従業員の平均賃金の割合

肥後銀行

64.5%

鹿児島銀行

56.1%

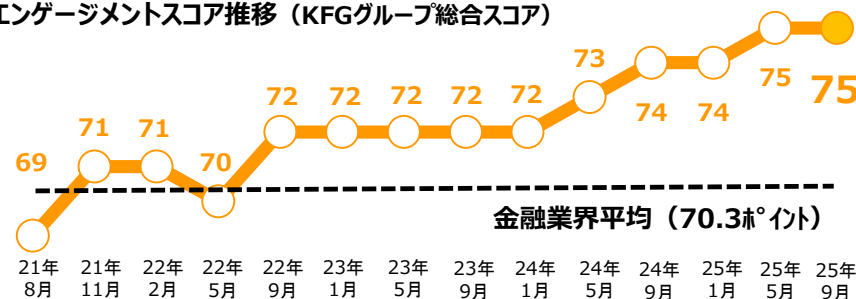
<女性活躍推進に向けた対応策>

- ・管理職登用の早期化のための育成施策の強化
- ・管理職ポストへのキャリア採用
- ・法人営業や本部企画セクションへの積極配置
- ・役席時のジョブローテーション等、女性管理職モデルの多様化 等

業界平均を上回るエンゲージメント

従業員のエンゲージメント調査スコアは、グループ全体で75ポイント
→金融業界平均70.3ポイントを上回り良好

エンゲージメントスコア推移（KFGグループ総合スコア）



金融業界平均（70.3ポイント）

※エンゲージメントサーベイ「Wevox」利用 業界平均は、アトラエ社調べ

人権意識の醸成に向けた取り組み

- ・人権デュー・デリジェンスの一環として、職場における人権尊重の状況を把握するため「人権に関する職場環境調査」を実施
- ・調査を通じて、ハラスメントや差別的言動、過度なプレッシャーの防止、心理的安全性の確保など、グループ内の人権意識を醸成

5. 【基本戦略3】持続的成長に向けた強固な経営基盤の確立

九州フィナンシャルグループ

戦略の柱②

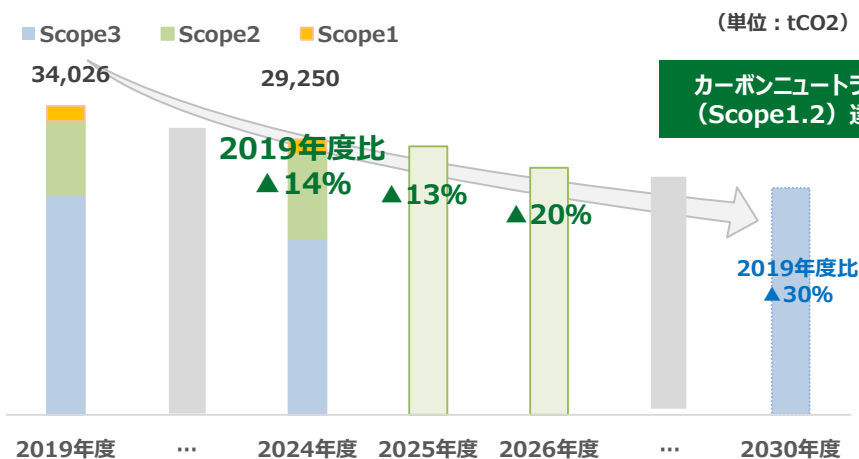
GXにかかる先進的な取り組み

カーボンニュートラルロードマップの遂行

- 移行計画に基づき、電力使用量の削減や再エネプランへの見直しなど削減への取り組みを実施

CO₂排出量削減目標（2019年度比）

[KPI] 2026年度までに **▲20%** 2024年度実績 **▲14%**



※算定範囲：当社、肥後銀行、鹿児島銀行

目標対象：Scope 1、Scope 2、Scope 3のカテゴリ 1（一部除く）、3、4、5、12

ESG投融资の増強

- 投融资を通じて、地域経済の持続的成長、気候変動対策に貢献

ESG投融资累計実行額

2021年度～2030年度累計 **1兆円**（うち環境関連**2,000億円**）

[KPI] 2024年～2026年度累計実行額 **8,500億円**

[実績] 2024年～2025年度（※）累計実行額 **7,076億円**



【直近の取り組み状況】

2025/7	サステナビリティ・リンク・ローン、ソーシャルローン、グリーンローン（鹿児島銀行）
2025/11	ひびんカーボンニュートラル・リンク・ローン（肥後銀行）

5. 【基本戦略3】持続的成長に向けた強固な経営基盤の確立

九州フィナンシャルグループ

戦略の柱②

GXにかかる先進的な取り組み

地域・お客様の脱炭素化に向けた取り組み

肥後銀行

鹿児島銀行

「Zero-Carbon-System（炭削くん）」による脱炭素経営促進

「脱炭素先行地域における取り組み事例」 地方創生×脱炭素化

特徴

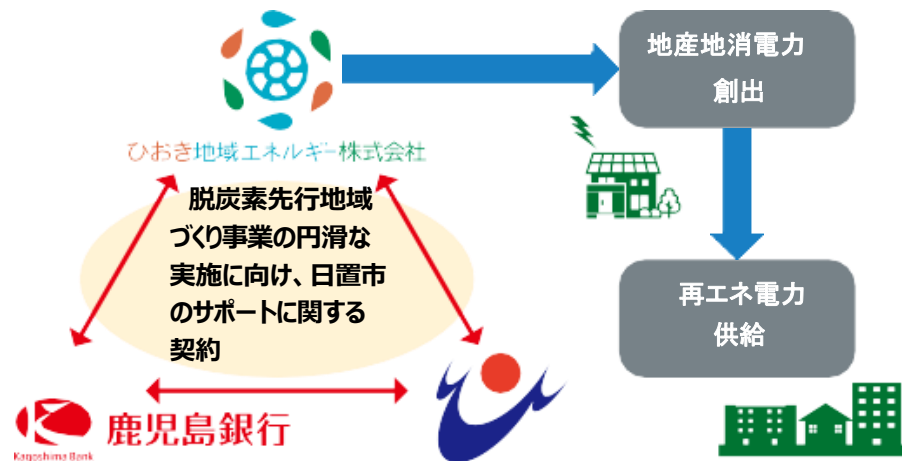


- サプライチェーン全体のCO2排出量を簡単に算定可能
- 金融機関の独自開発サービスとして、可視化～削減までトータルサポート

「炭削くん」の歩み

2025年11月 累計導入件数**5,000件**突破
2025年10月 筑波銀行、筑邦銀行にて取扱開始
2025年9月 「脱炭素経営EXPO」出展
2025年7月 鹿児島銀行にて取扱開始
2025年5月 東北銀行にて取扱開始
2025年3月 累計導入件数**4,000件**突破
2024年11月 福岡銀行とのサービス相互導入
2024年7月 「サプライチェーン算定機能」追加
2024年1月 すべてのお客様へサービス提供開始
2023年7月 肥後銀行グループにて利用開始

- 鹿児島県日置市における地域の「脱炭素化」の実現に向けて、鹿児島銀行は、日置市、事業運営主体の「ひおき地域エネルギー(株)」との事業サポート契約を締結
- 事業計画策定段階から関係者と協議を重ね、一貫して支援を実施するなど地域のGXを推進



5. 【基本戦略3】持続的成長に向けた強固な経営基盤の確立

九州フィナンシャルグループ

戦略の柱②

GXにかかる先進的な取り組み

自然資本・生物多様性に関する取り組みや方針

- 脱炭素社会・自然資本の保全と回復への貢献を推進するとともに、情報開示の拡充に努め、持続可能な地域社会の実現を目指す

2020年12月 「環境方針」制定

2022年8月 「TNFDフォーラム」参画

2024年1月 「TNFD Adopter」へ登録

2024年4月 「生物多様性保全方針」制定

2025年7月 TNFDのフレームワークに沿った開示開始

2025年7月 環境省支援プログラムへの採択
「令和7年度脱炭素社会実現に向けた自然関連情報分析実践プログラム」

概要

TNFDフレームワークを参考に、融資ポートフォリオにおける自然関連の依存・インパクト・リスク・機会の分析を通じて、気候変動対策と自然課題の対策の関係を整理し、自然資本対応を推進することを目的としたプログラム

2025年11月 「ネイチャーポジティブ宣言」公表

環境省が事務局を務めるJ-GBF（2030生物多様性枠組実現日本会議）の趣旨に賛同しネイチャーポジティブ宣言を公表



水保全への取り組み

肥後銀行

- 地域のお客様、行政と連携し、熊本の地下水保全を始めとする自然共生の取り組みを深化させ、持続可能な地域経済の実現に貢献

2025年11月、肥後銀行の水保全に関わる取り組み「自然資本と共に生きる新しい地域価値共創」が、プラチナ構想ネットワーク主催の「第13回プラチナ大賞」の「優秀賞・サステナビリティ向上賞」を受賞

水保全への取り組み

肥後銀行の地下水涵養・保全活動

- ◆ 「阿蘇大観の森」での植樹
- ◆ 「阿蘇水掛の棚田」での稲作

産学金連携による水循環の保全活動

- ◆ 地域共創流域治水を中心とした復旧・復興
- ◆ 「雨庭」などのグリーンインフラの設置
- 「熊本ウォーターポジティブ・アクション」

アマモ場の再生とブルーカーボンの創出

- ◆ 熊本県内で初となる「J ブルークレジット」31トンの認証を取得
- ◆ アマモが吸収するCO2の「見える化」と「価値化」を実現



プラチナ大賞表彰式



アマモ場再生の様子

5. 【基本戦略3】持続的成長に向けた強固な経営基盤の確立

九州フィナンシャルグループ

戦略の柱②

GX・DXにかかる先進的な取り組み

DXへの取り組み

地域DX推進

Hugmeg (ハグメグ)

KFG

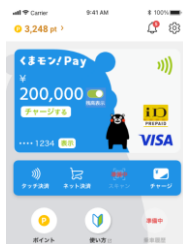
- ◆ 地域価値共創アプリ
- ◆ 金融サービス、暮らしに役立つ情報発信



KDS学校会計クラウド

九州デジタルソリューションズ

- ◆ 学校徴収金管理システム
- ◆ 熊本県（68校）福岡県（95校）高知県（49校）へ導入



「iD」ロゴ及び「iD プライベート」は株式会社NTTドコモの登録商標です。
© 2010 熊本県くまモン#K36295

くまモン!Pay

肥後銀行

- ◆ キャッシュレス決済アプリ
- ◆ QR決済（2026年3月末）
- ◆ デジタル商品券機能（同8月）

Payどん

鹿児島銀行

- ◆ キャッシュレス決済アプリ（QR決済）
- ◆ 鹿児島県内4金融機関での共同運営
- ◆ 地域振興券事業等40件受託（2024年度）



次世代システム群の整備

- ◆ 基幹系システムを含むデジタル基盤を総合的に整備し、最新アーキテクチャへ更改する計画を策定中

2025年度中に、OHR低減・価値創造を可能にする具体案策定

- ◆ システム統合の範囲
- ◆ 自営開発の範囲
- ◆ 移行・運用コスト

グループ全体最適な
次世代システム群

- ◆ 顧客影響・業務影響
- ◆ システム開発・運営態勢
- ◆ 移行タイミング 他

AI活用推進

AI専門部署を設立（2025年10月）

KFG AI統括室	・グループのAI化を戦略的に推進し、AI活用を統括
肥後・鹿児島 AIソリューショングループ	・AIを活用した業務プロセス改革、AIの内製化開発を担う

AI活用事例

肥後銀行

鹿児島銀行

- ◆ 生成AI活用による業務効率化
- ◆ 顧客面談内容をリアルタイムでテキスト化してCRMへ連携
- ◆ 業務支援チャットボットの拡大



Kyushu FG

計数資料

株式会社九州フィナンシャルグループ

Kyushu Financial Group, Inc.



1. 決算概況

【肥後銀行】

- ・業務粗利益は、資金利益の増加等により、前年同期比+45億円の301億円となった。
- ・経常利益は、業務粗利益の増加等により、前年同期比+33億円の141億円となった。
- ・中間純利益は、前年同期比+24億円の100億円となった。

肥後銀行 損益状況

(億円)

損益状況	肥後銀行		
	2025/9	前年同期比	2024/9
経常収益	540	46	493
業務粗利益	301	45	256
資金利益	283	31	251
役務取引等利益	37	0	37
その他業務利益	▲ 18	13	▲ 32
(うち国債等債券損益)	▲ 0	▲ 2	1
経費 (▲)	202	11	191
コア業務純益	100	36	63
一般貸倒引当金繰入額 (▲)	▲ 3	▲ 3	—
業務純益	102	37	65
臨時損益	38	▲ 4	42
不良債権処理額(▲)	9	8	0
貸倒引当金戻入益	—	▲ 9	9
株式等関係損益	41	12	29
経常利益	141	33	107
特別損益	▲ 0	0	▲ 0
税引前中間純利益	140	33	107
中間純利益	100	24	75
(与信費用)	5	14	▲ 8

【鹿児島銀行】

- ・業務粗利益は、資金利益の増加等により、前年同期比+34億円の304億円となった。
- ・経常利益は、業務粗利益の増加等により、前年同期比+60億円の159億円となった。
- ・中間純利益は、前年同期比+42億円の111億円となった。

鹿児島銀行 損益状況

(億円)

損益状況	鹿児島銀行		
	2025/9	前年同期比	2024/9
経常収益	471	92	378
業務粗利益	304	34	269
資金利益	275	27	247
役務取引等利益	41	4	37
その他業務利益	▲ 12	2	▲ 15
(うち国債等債券損益)	▲ 3	▲ 3	▲ 0
経費 (▲)	179	7	171
コア業務純益	128	30	98
一般貸倒引当金繰入額 (▲)	—	6	▲ 6
業務純益	124	20	104
臨時損益	34	40	▲ 6
不良債権処理額(▲)	0	▲ 11	12
貸倒引当金戻入益	16	16	—
株式等関係損益	13	12	1
経常利益	159	60	98
特別損益	▲ 0	0	▲ 0
税引前中間純利益	158	61	97
中間純利益	111	42	68
(与信費用)	▲ 15	▲ 21	6

2. 資金利益

【肥後銀行】283億円（前年同期比+31億円）

- ・ 資金調達コストは増加したものの、貸出金利の増加等により、前年同期比+31億円となった。

【鹿児島銀行】275億円（前年同期比+27億円）

- ・ 資金調達コストは増加したものの、貸出金利の増加等により、前年同期比+27億円となった。

肥後銀行 資金利益の状況

(億円)

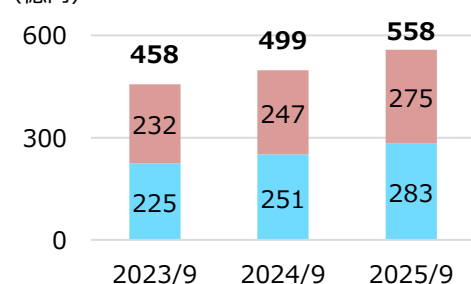
	2023/9	2024/9	2025/9	前年同期比
資金利益	225	251	283	31
国内部門	203	229	254	25
うち貸出金利息	176	190	247	57
うち有価証券利息	34	43	40	▲ 2
うち資金調達コスト（▲）	9	14	54	40
国際部門	21	22	28	6
うち貸出金利息	22	24	14	▲ 9
うち有価証券利息	48	53	73	19
うち資金調達コスト等（▲）	49	55	60	4

鹿児島銀行 資金利益の状況

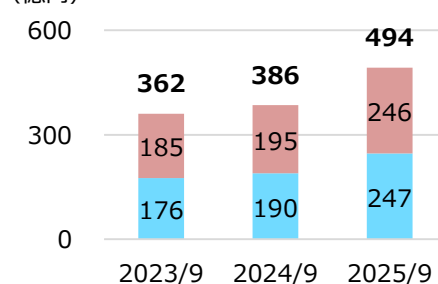
(億円)

	2023/9	2024/9	2025/9	前年同期比
資金利益	232	247	275	27
国内部門	223	234	263	29
うち貸出金利息	185	195	246	50
うち有価証券利息	40	38	45	7
うち資金調達コスト（▲）	2	10	57	46
国際部門	9	13	11	▲ 1
うち貸出金利息	6	2	0	▲ 1
うち有価証券利息	23	26	21	▲ 4
うち資金調達コスト（▲）	20	15	10	▲ 4

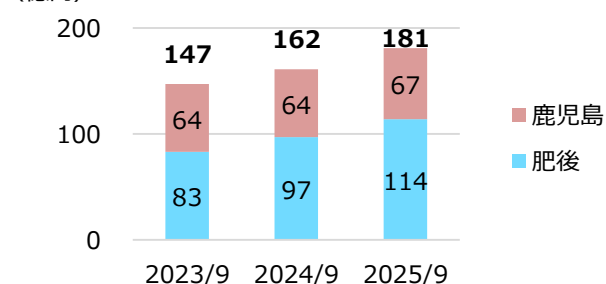
資金利益の推移



国内貸出金利息の推移



有価証券利息の推移



3. 役務取引等利益

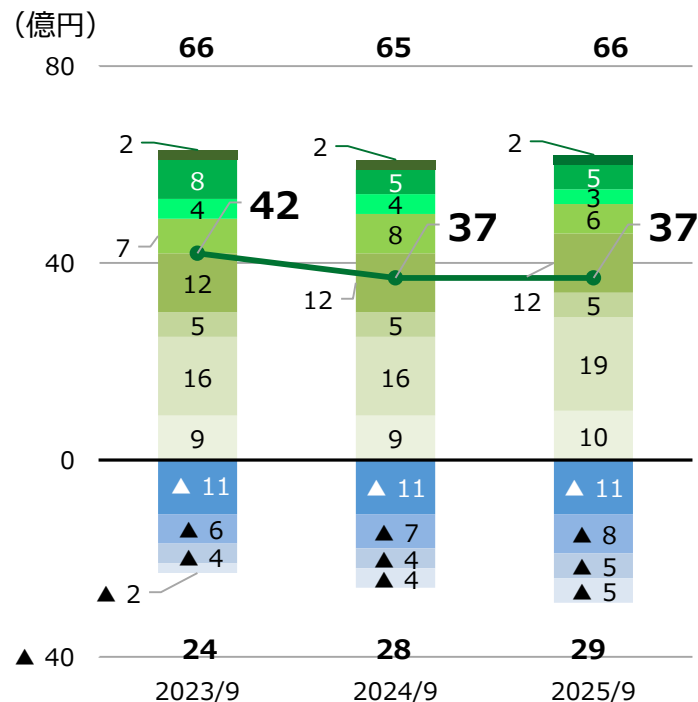
【肥後銀行】

- 役務取引等利益は、受入為替手数料が増加したものの、ローン取扱手数料の減少等により、前年同期比横ばいの37億円となった。

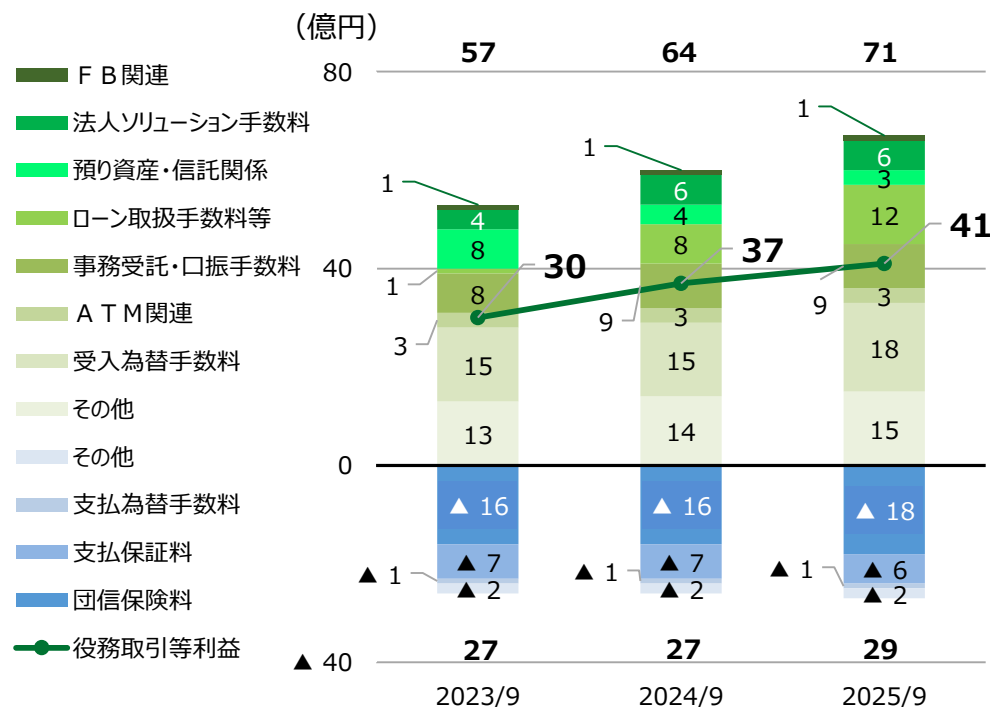
【鹿児島銀行】

- 役務取引等利益は、ローン取扱手数料の増加等により、前年同期比+4億円の41億円となった。

肥後銀行 役務取引等利益の状況



鹿児島銀行 役務取引等利益の状況

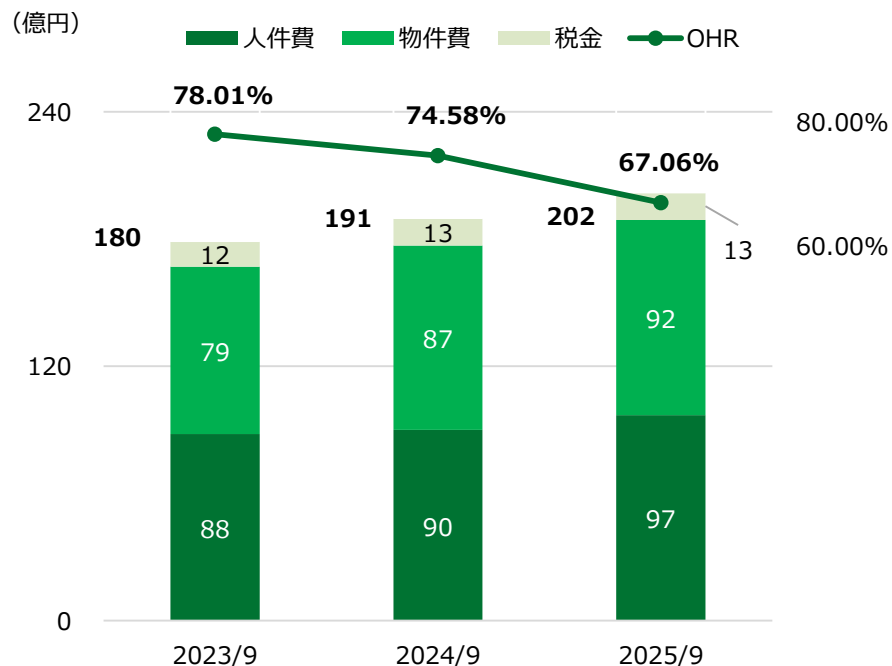


4. 経 費

【肥後銀行】

- ・ 経費は、物件費、人件費の増加等により前年同期比+11億円の202億円となった。
- ・ O H R は、経費は増加したものの、業務粗利益の増加により、前年同期比▲7.52%の67.06%となった。

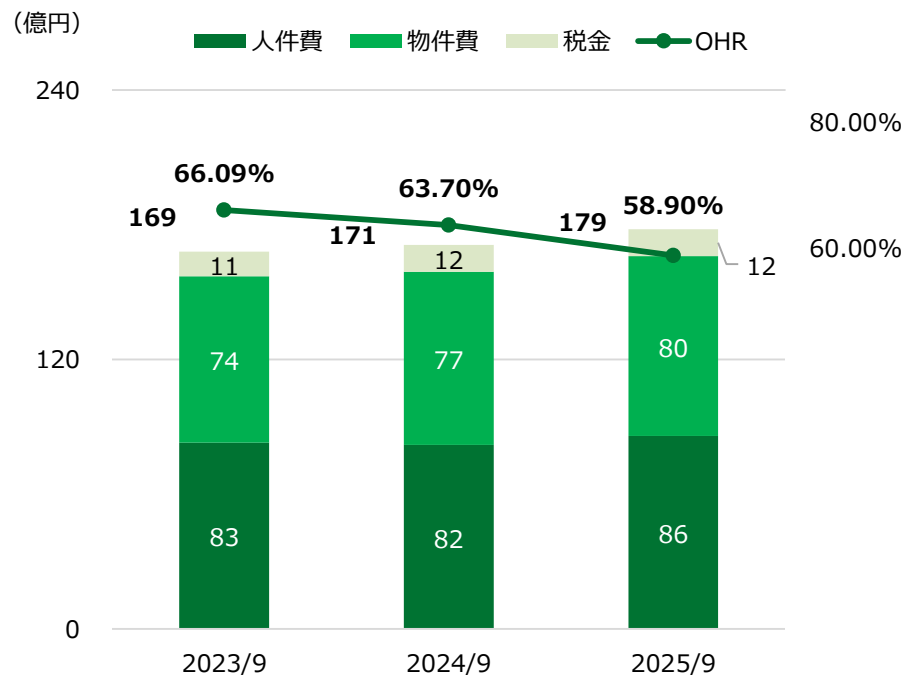
肥後銀行 経費の状況



【鹿児島銀行】

- ・ 経費は、人件費、物件費の増加等により前年同期比+7億円の179億円となった。
- ・ O H R は、経費は増加したものの、業務粗利益の増加により、前年同期比▲4.80%の58.90%となった。

鹿児島銀行 経費の状況

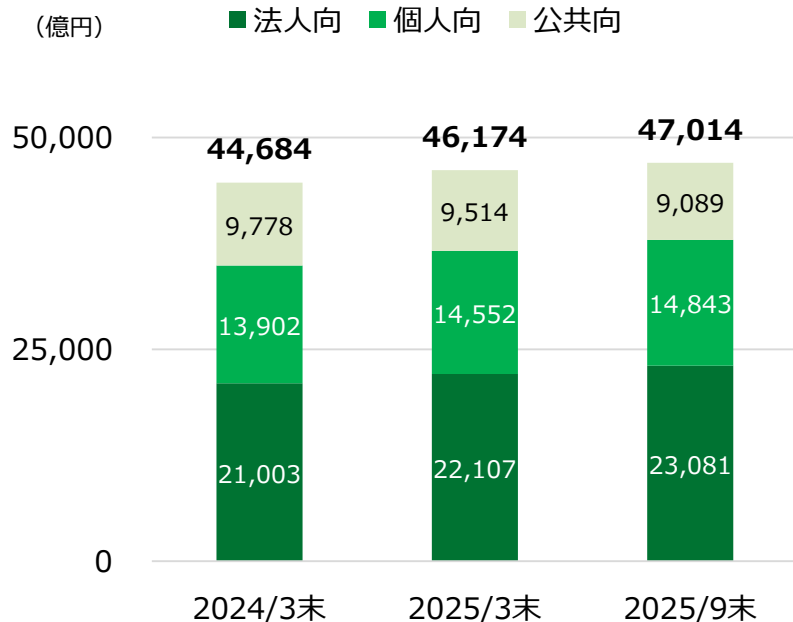


5. 貸出金（平残）

【肥後銀行】（平残）

- 法人向、個人向において、貸出金平残が増加したことから、前年度末比+839億円の4兆7,014億円となった。

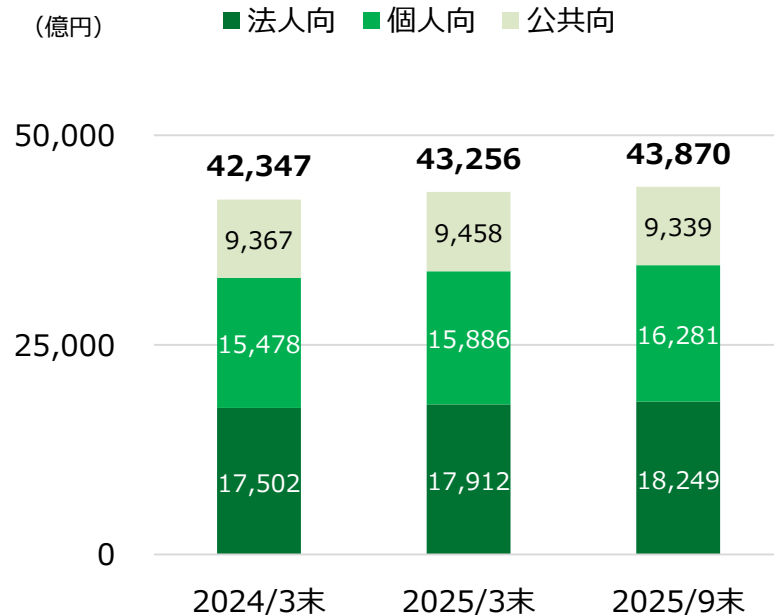
肥後銀行 平残



【鹿児島銀行】（平残）

- 法人向け・個人向け平残がいずれも増加したことから、前年度末比+614億円の4兆3,870億円となった。

鹿児島銀行 平残

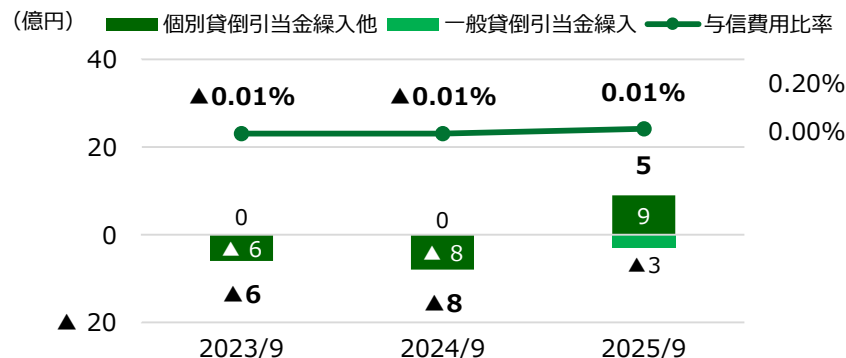


6. 与信費用と金融再生法開示債権

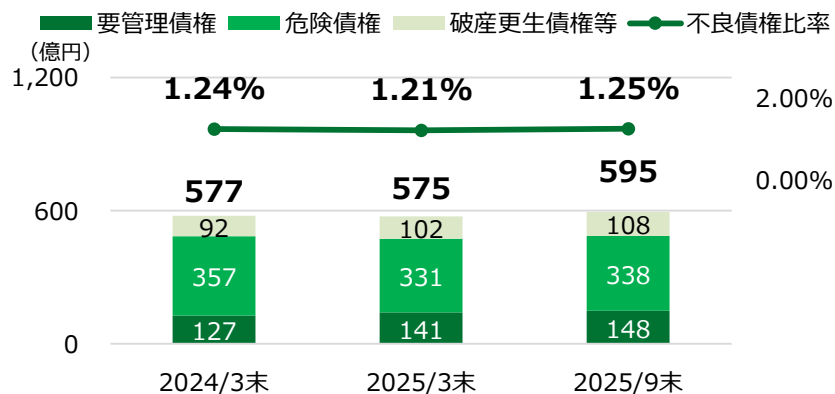
【肥後銀行】

- ・ 与信費用比率は、前年同期比+0.02%の0.01%となった。
- ・ 不良債権比率は、前年度末比+0.04%の1.25%となった。

肥後銀行 与信費用の状況



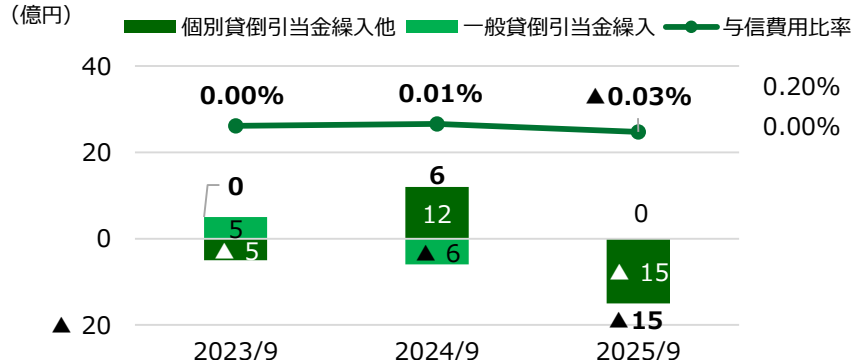
肥後銀行 金融再生法開示債権の状況



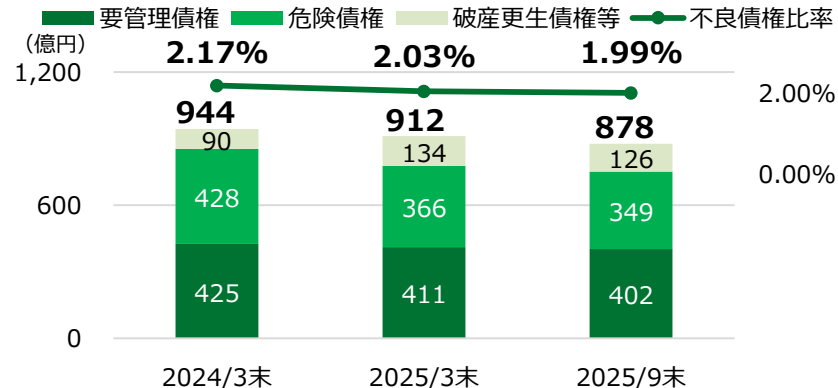
【鹿児島銀行】

- ・ 与信費用比率は、前年同期比▲0.04%の▲0.03%となった。
- ・ 不良債権比率は、前年度末比▲0.04%の1.99%となった。

鹿児島銀行 与信費用の状況



鹿児島銀行 金融再生法開示債権の状況



7. 有価証券（残高）

【肥後銀行】

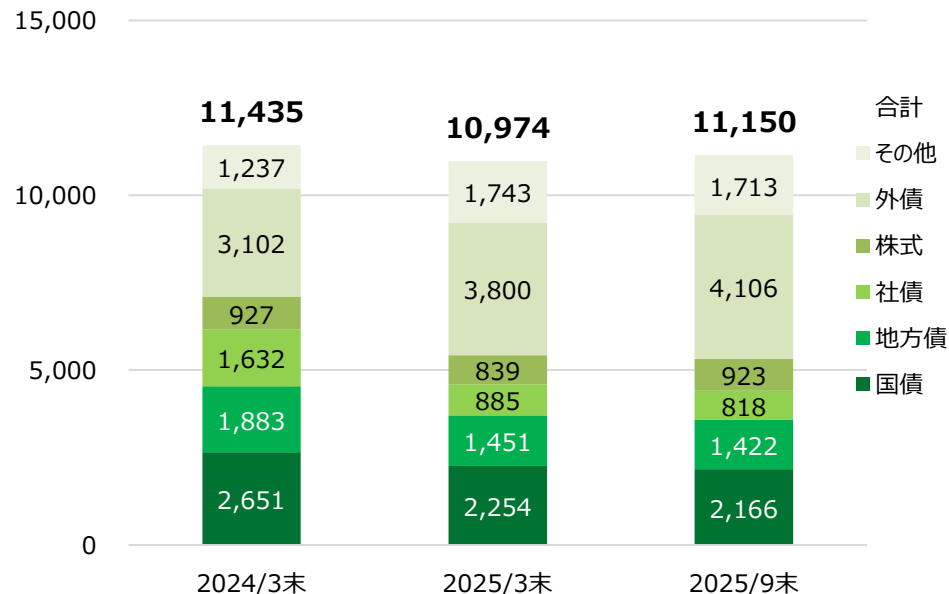
- 有価証券残高は、株式や外債が増加したことから、前年度末比+176億円の1兆1,150億円となった。

【鹿児島銀行】

- 有価証券残高は、社債、国債及び外国証券等が増加したことから、前年度末比+1,174億円の8,862億円となった。

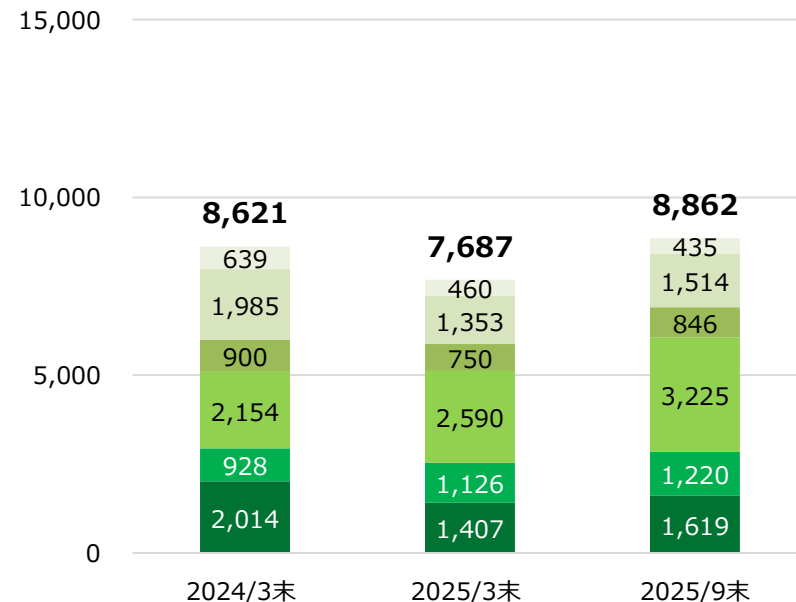
肥後銀行 有価証券残高の状況

(億円)



鹿児島銀行 有価証券残高の状況

(億円)



7. 有価証券（評価損益）

【肥後銀行】

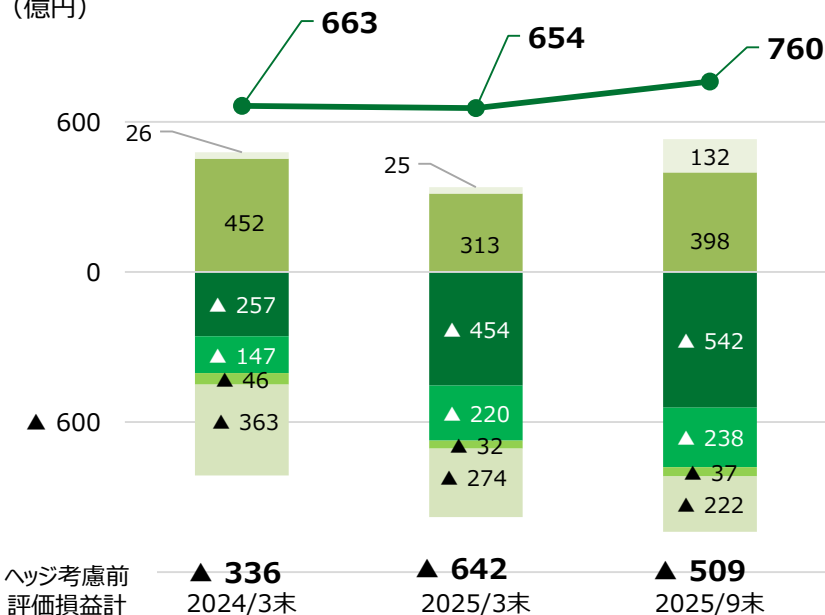
- ヘッジ損益考慮後の有価証券評価損益は、251億円となった。

【鹿児島銀行】

- ヘッジ損益考慮後の有価証券評価損益は、345億円となった。

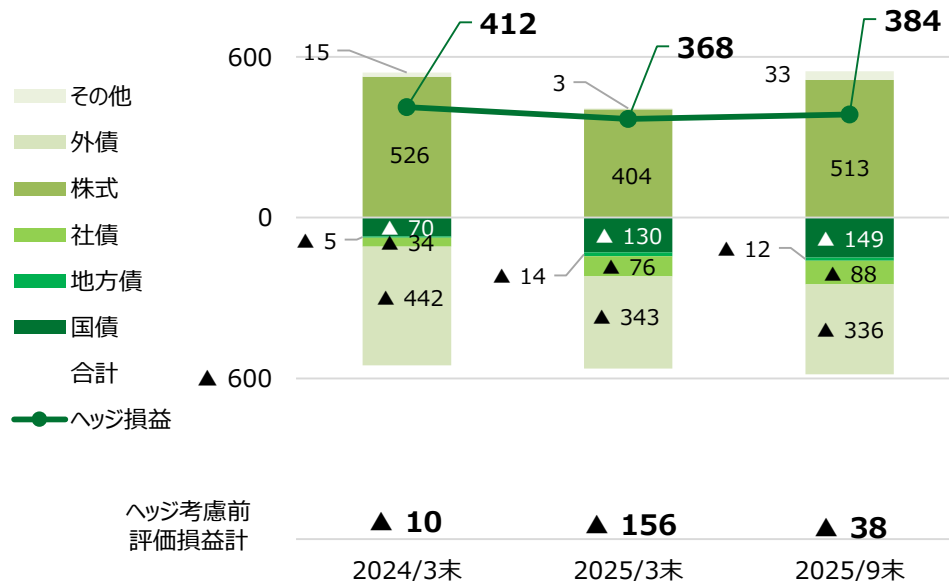
肥後銀行 有価証券評価損益の状況

(億円)



鹿児島銀行 有価証券評価損益の状況

(億円)



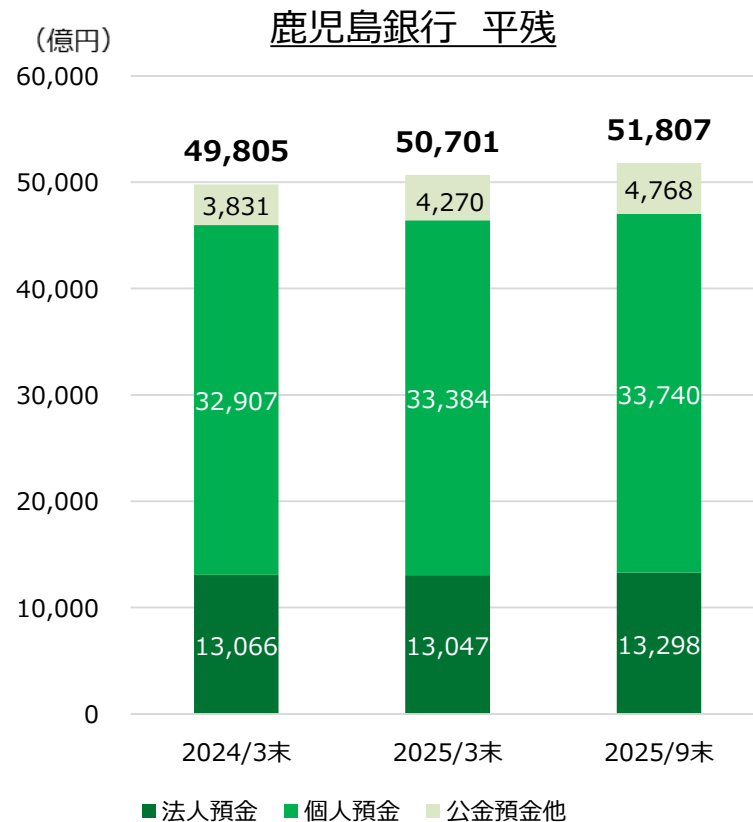
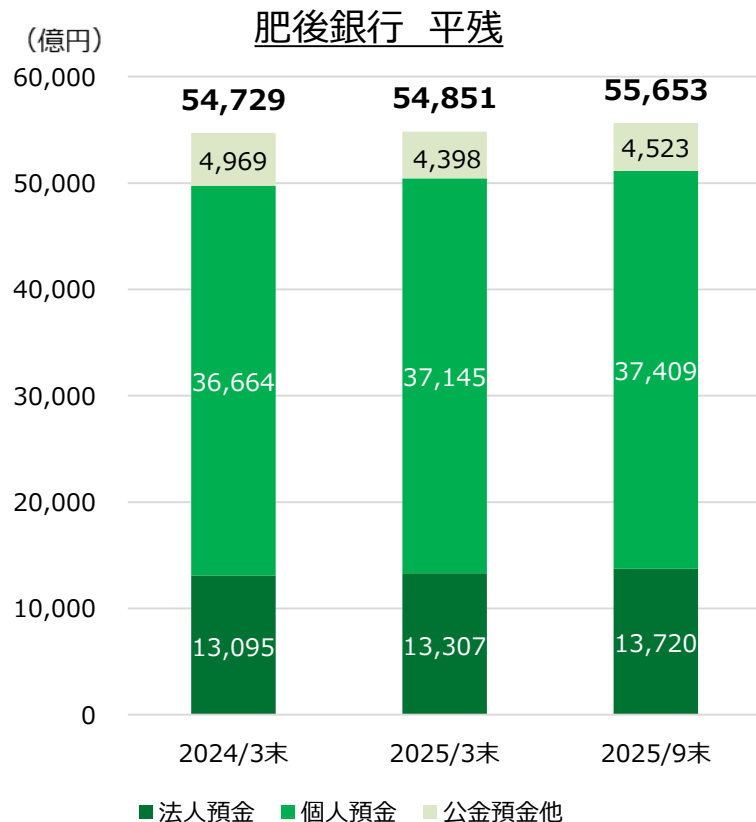
8. 総預金（含むNCD）（平残）

【肥後銀行】

- 種別ごとの預金平残がすべて増加したことから、前年度末比+802億円の5兆5,653億円となった。

【鹿児島銀行】

- 種別ごとの預金平残がすべて増加したことから、前年度末比+1,106億円の5兆1,807億円となった。

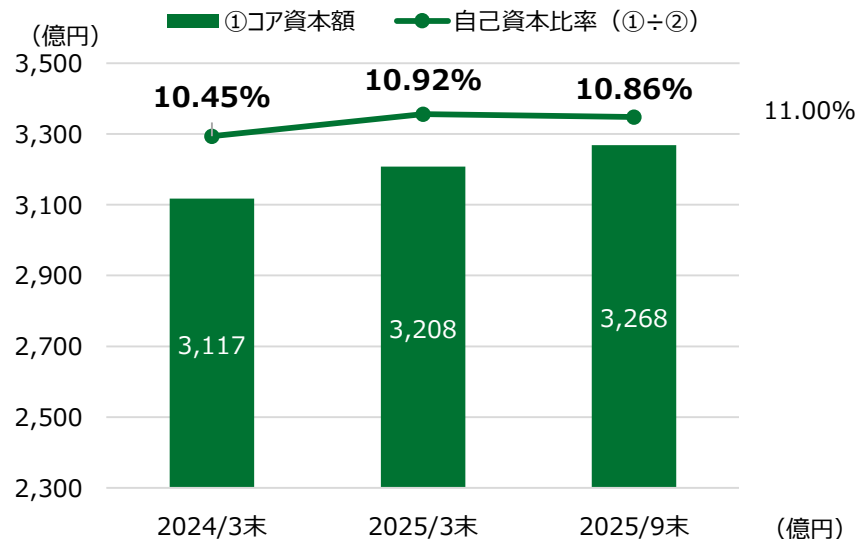


9. 自己資本比率

【肥後銀行】

・ 自己資本比率は、前年度末比▲0.06%の10.86%となった。

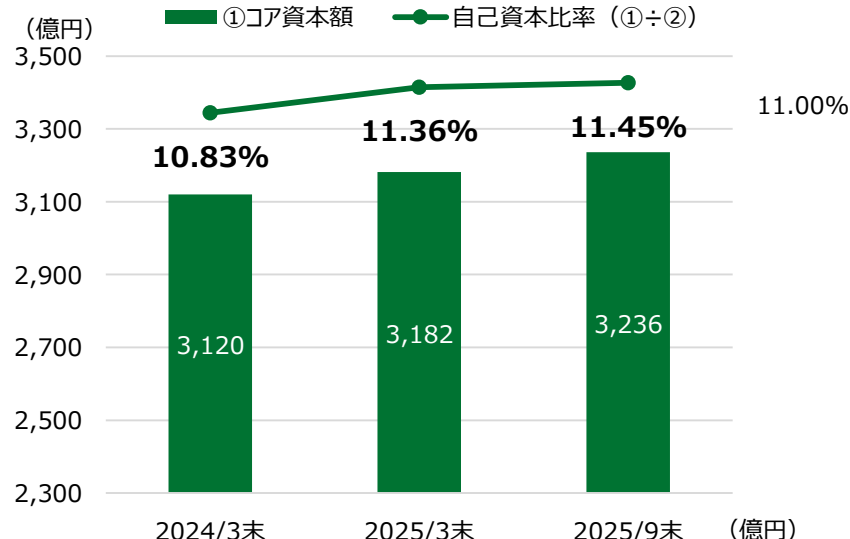
肥後銀行 自己資本比率の状況



【鹿児島銀行】

・ 自己資本比率は、前年度末比+0.09%の11.45%となった。

鹿児島銀行 自己資本比率の状況



	2024/3末	2025/3末	2025/9末	2025/3比 増減
①コア資本額	3,117	3,208	3,268	59
②リスクアセット	29,808	29,377	30,083	706
自己資本比率 (①÷②)	10.45%	10.92%	10.86%	▲0.06%

	2024/3末	2025/3末	2025/9末	2025/3比 増減
①コア資本額	3,120	3,182	3,236	54
②リスクアセット	28,811	27,991	28,245	254
自己資本比率 (①÷②)	10.83%	11.36%	11.45%	0.09%

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。

こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化等により、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。



Kyushu FG

本件に関するお問い合わせ先

株式会社 九州フィナンシャルグループ 広報・IR部

TEL 096-326-5607